

INTERNATIONAL SAFE SCHOOL

認証申請書



亀岡市立曾我部小学校

インターナショナルセーフスクール認証申請にあたって



近年、核家族化や少子高齢化、地域の連携意識の希薄化などとともに、子育てに対する意識の多様化が進み、子どもと家庭を取り巻く状況は大きく変化してきています。今、子どもたちの健やかな成長のために、子育て支援の充実が一層求められています。

亀岡市教育委員会ではこのような状況を踏まえ、2013年8月に「亀岡市教育振興基本計画～かめおか教育プラン～」を策定し、『「人権尊重」を基盤とした教育』を基本に安全指導、安全管理の充実を図る一つの取組として「インターナショナルセーフスクール（ＩＳＳ）の推進」を重点施策として位置付け、亀岡市立曾我部小学校において2013年9月にＩＳＳの認証取得を目指すことを宣言しました。

宣言後、ＩＳＳを推進していくにあたり、児童、教職員、保護者、地域住民、行政等が一体となり、様々な問題の解決に向けて取り組んでまいりました。

子どもたちはＩＳＳを通じて、様々な年齢層や立場の人々と触れ合う機会が増えたことにより、家庭や学校だけでなく、社会に適応するために必要な社会性や公共性を身に付けることができました。また、児童が同じ目標に向かって、みんなで取り組むことにより、学校生活における安全性の質が向上し、活発に活動することができました。

今後は、地域コミュニティの中核施設として取り組んできた曾我部小学校の活動が、安全・安心な教育環境づくりの模範となり、市内外の小・中学校へ広がっていくことを期待しております。

最後になりましたが、これまでのＩＳＳの認証取得を目指す取組に対して、お力添えをいただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

亀岡市教育委員会　　教育長　　竹岡　敏

ISS で「安心・安全 いのち輝く曾我部小学校に」



曾我部町は、亀岡市中部に位置し、豊かな自然と文化、歴史が息づく町です。校区には大学やスポーツ施設などがあり、学問や運動に適した恵まれた環境です。

曾我部小学校は、1873年（明治6年）に開設された「養正校」、「偕行校」を前身に、1889年（明治22年）に「曾我部尋常小学校」として創設されました。1872年（明治5年）の学制公布翌年にいち早く学校を開設された地域の方の教育にかける思いは140余年の時を経た現在でも受け継がれています。

さて、亀岡市がセーフコミュニティとして再認証される中、本校は2013年9月にインターナショナルセーフスクール（I S S）の認証取得宣言を行いました。学校におけるけがや事故、いじめや暴力を予防する安心安全な学校づくりを進めるというI S Sの趣旨は、子どもたちの自立に必要な資質や能力を育てることになり、今日の学校教育が抱えている問題の解決に有効であるととらえ、I S Sの8指標に合わせて取り組みを進めました。

取り組みに当たって大切なことは次の3点です。

- ①・子どもたちの思いや発想を大切にして「子ども発」の主体的な活動にすること。
- ②・安全への知識や技能、行動力を身につけること。
- ③・P T Aや地域・各種団体と連携した幅広い活動にすること。

シンボルマークのI（あい）ちゃん誕生をスタートに、教育活動をI S Sの視点で見直し再構成するとともに、「いじめ防止フォーラム」や「自転車運転免許証取得」、「子ども110番の家・I（あい）ちゃんパトロール隊の普及」などの新規事業を展開しました。

こうしたI S Sの取り組みを通して、教職員の安全意識が日常的に高まったことや、地域や各種団体との連携や協働が進み、子どもを取り巻くセーフティネットが広がってきました。そして、何よりも子どもたちの意識や行動が大きく変化しました。いじめはもちろんのこと、けがや事故、友達とのトラブルといったことが少なくなり、互いを認め合いながら思いやりを持って落ち着いた学校生活が送れるようになってきました。曾我部小学校が世界基準のI S S認証取得にチャレンジしている誇りを、子どもたちから感じることもあり、とてもうれしく思います。

子どもたちが、安心安全に生きる力を身につけ、いのちを輝かせて成長してくれるよう、I S Sの取り組みの充実・発展に一層努めてまいりたいと思います。

亀岡市立曾我部小学校 校長 侯野弘和

目 次

第1章 曽我部小学校の概要	1
1 地域の概要	
2 教育方針	
3 在籍児童数・教職員数等	
4 学校を取り巻く環境	
5 通学路の状況	
第2章 インターナショナルセーフスクールへの取り組み	7
1 取り組みの背景	
2 これまでの取り組み	
第3章 外傷によるけがの状況	9
1 校内のけが	
(1) 軽微なものを含むけがの発生状況	
(2) 学校事故災害の状況（事故災害報告データーより）	
2 自転車走行時における児童の実態	
3 心の健康	
4 けがの発生状況の分析と予防対策	
第4章 8つの指標に基づいた取り組み	21
指標1 協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている	
1 インターナショナルセーフスクールの協働体	
2 取り組みの概要	
(1) 教職員の協働体制	
(2) P T Aの協働体制	
(3) 地域自治会・各種団体の協働体制	
(4) 市役所・警察署・消防署・交通対策協議会の協働体制	
(5) 保育所・高校・大学との協働体制	
(6) 児童委員会組織	
指標2 協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている	28
指標3 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること	
1 児童の危険予測・回避能力の育成	30
2 交通安全意識の向上	
3 こころの教育	
4 学校の指導体制	
5 ハイリスク対策	
6 環境整備	

指標4 ハイリスクグループ・環境及び弱者を対象としたプログラムがある ————— 38

- 1 特別支援学級（ひまわり3組 車いすを使用）児童に対する対応
 - (1) 登下校支援
 - (2) 雨の日の支援
 - (3) 協力学級における支援
 - (4) 理解教育
 - (5) 災害時の対応
- 2 土砂災害、大規模な災害の備えた対応
 - (1) 避難訓練の実施
 - (2) 安全マップの作成・ハザードマップの掲示
 - (3) 地域の災害学習
- 3 新1年生の安全な登下校に対する対応

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること ————— 43

- 1 課題を導く原因分析
- 2 重点取組
 - (1) けがマップの作成
 - (2) 毎日のけが調べ
 - (3) 校舎内外の安全点検
 - (4) (12) 安全学習
 - (5) 保育所・幼稚園・小学校の円滑な連携
 - (6) 体育における体幹強化の指導
 - (7) 掃除等日常生活における体幹を意識した指導
 - (8) いじめ防止フォーラムの開催
 - (9) なかよし班活動
 - (10) 自転車運転免許証
 - (11) 交通安全教室
 - (13) ヘルメット着用の取り組み
 - (14) 安全マップづくり

指標6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある ————— 55

指標7 学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある ————— 58

- 1 けがの減少・心の育成
- 2 自転車事故防止

指標8 国内・国際的なネットワークへ継続的に参加している ————— 61

第5章 安全な学校づくりに向けての今後の取組と展望 ————— 62

- 1 課題
- 2 今後の取り組みと展望

第1章

曾我部小学校の概要

1 地域の概要

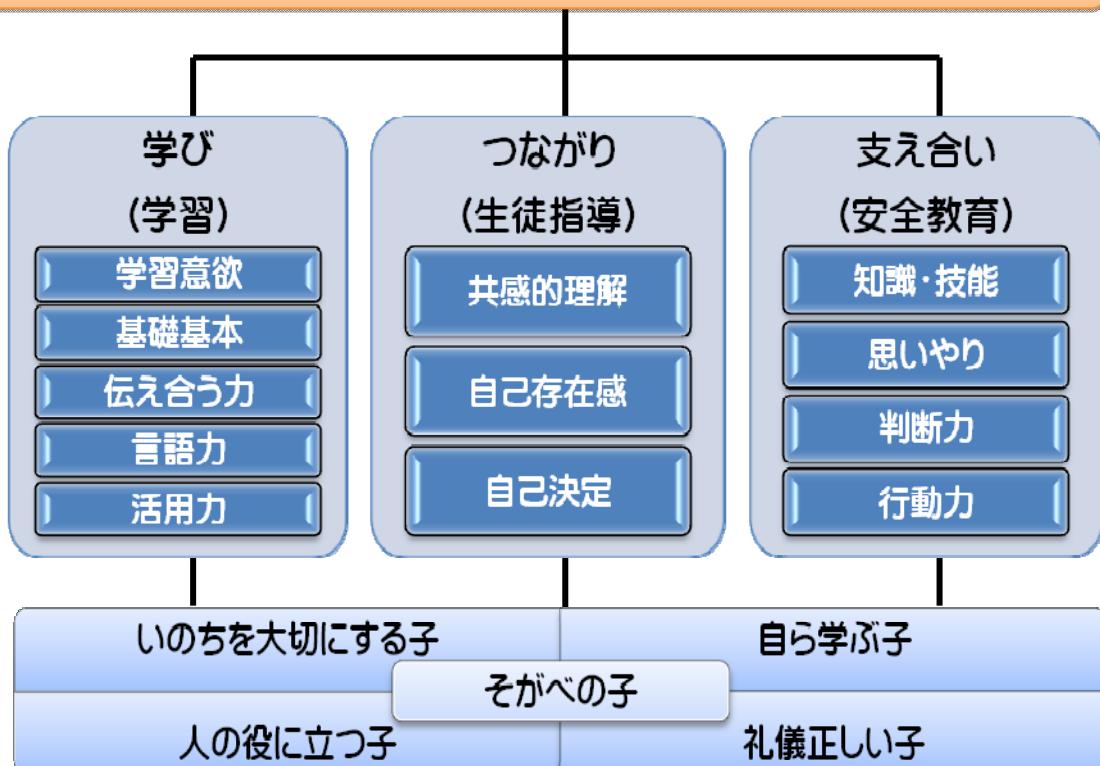
曾我部町は亀岡市街地の約4km西に位置し、法貴谷川、犬飼川、曾我谷川が流れる田園地帯です。校区に京都を南北に縦断する京都縦貫自動車道と、大阪につながる国道423号が通り、交通の要となっています。町の世帯数は約1,650世帯、人口約4,000人で、古墳や神社、寺院など文化財が多く、京都学園大学や亀岡市立運動公園などの学びやスポーツの拠点なる施設もあり、学生をはじめとして人々の往来が盛んな活気ある町です。



2 教育方針

安心・安全 いのち輝く曾我部小学校

学校教育目標：自ら学び、心をつなぎ、なかまと支え合う児童の育成



本校は、安心・安全で一人ひとりのいのち輝く学校を目指し、「自ら学び、心をつなぎ、なかまと支え合う児童の育成」を目標としています。

目標達成に必要な「学び」「つながり」「支え合い」の3つの観点ごとに重点項目を設定し取組を進めています。

児童が落ち着いた学校生活を送り、確かな学力をつけていくためには、何より安心・安全な学校づくりがその基盤となると考えています。

3 在籍児童数・教職員数等

(2014年7月1日現在)

表:1-1

＜在籍児童数＞

学年	組	学年児童数		
		男	女	計
ひまわり (特別支援学級)	1			
	2	5	4	9
	3			
1年		16	11	27
2年		13	8	21
3年		15	16	31
4年		16	14	30
5年		17	15	32
6年		13	15	28
合 計		95	83	178

表:1-2

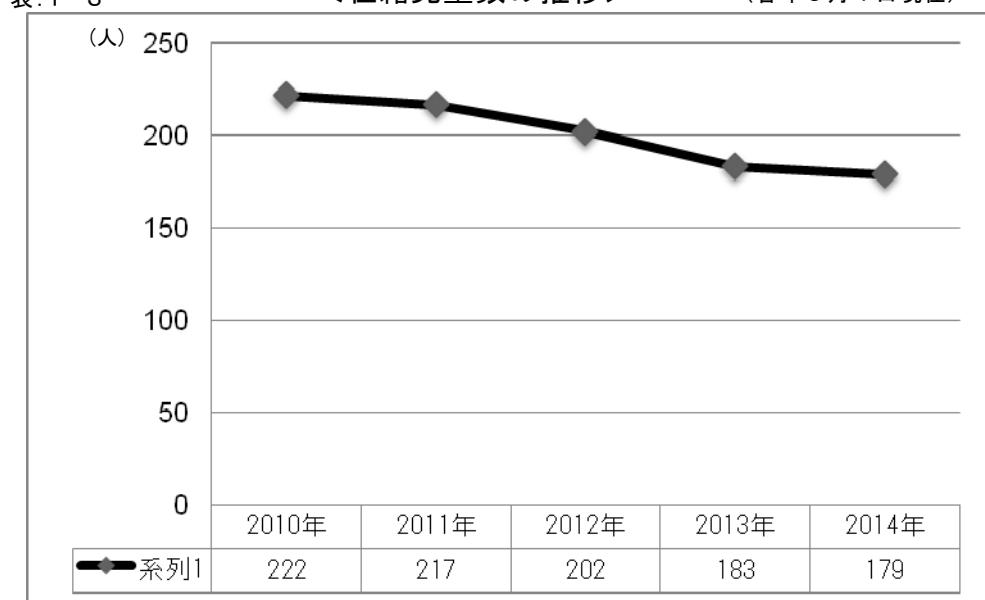
＜教職員数＞

職名	人数
校長	1
教頭	1
教諭	10
養護教諭	1
事務	1
用務	1
支援員等	2
合 計	17

表:1-3

＜在籍児童数の推移＞

(各年5月1日現在)



在籍児童数が、年々減少しています。入学児童数の減少により、今後も減少傾向は続く見込みです。

4 学校を取り巻く環境



校区東側は山際まで住宅地が広がり、土砂災害特別警戒区域に指定されている所も多く、崖崩れ等災害の危険性があります。また、校区内には3本の河川が流れ、浸水の危険を伴う地域もあります。

曾我部町内の警戒区域

○土砂災害警戒区域 16ヶ所

○土砂災害特別警戒区域 29ヶ所

危険性がより高

土砂災害特別警戒区域の様子

2012年豪雨による土石流の発生



2012年の豪雨では、山から流れる川の氾濫によって土石流が発生し大きな被害が出ましたが、当時の曾我部町自治会区長さんの的確な住民避難誘導により、人的な被害はありませんでした。氾濫した場所は曾我部町自治会区長さんをはじめ、住民のみなさんの迅速な行動と多大な努力によって、改修工事がおこなわれました。

2014年 改修された決壊箇所

2014年豪雨による浸水・崖崩れ発生



5 通学路の状況



地域ごとの危険ポイント

学が丘地域

新興住宅地で、坂道や、見通しの悪い交差点が多い。また地域にある工場やコンビニエンスストアへ出入りする車に注意が必要

重利地域

児童の通学路が、国道の裏道となっており、スピードを出した車に注意が必要

西条・穴太・口山地域

歩道が狭く、車がすれ違う際にはグリーンベルト内に入ってくることもある。また、見通しの悪い交差点があり、横断には注意が必要

寺・中・春日部地域

学校前の交差点（南条交差点）や点滅信号での横断の仕方に注意が必要

夫婦池・犬飼・法貴地域

歩道にはガードレールはあるが、大型トラック等の交通量も多い国道423号を通る。途中信号のない歩道を横断する際注意が必要

第2章 インターナショナルセーフスクールへの取り組み

1 取組の背景

本校は2013年9月にインターナショナルセーフスクール（I S S）の認証取得宣言を行いました。I S Sの趣旨である安心安全な学校づくりを進めることは、けがや事故、いじめや暴力といった今日の学校教育が抱えている問題の解決に有効であると考えたからです。I S Sの取組をとおして、地域・保護者と連携し、落ち着いた環境のもと自立に必要な資質や能力を育み、命を大切にする子どもたちを育てていきたいと考えています。

2 これまでの取組

年	月	取り組み内容	連携機関・参加団体等
2013年	9月	インターナショナルセーフスクール取得宣言	
	11月	研 厚木市立清水小学校、半田市立亀先小学校視察	教員
	12月	児 ソフィア講演会 (京都市動物園園長 秋久 成人様)	京都新聞社
		情 I S SマスコットI (あい)ちゃん誕生	児童・教員
	2014年 1月	児 110番の日 安全指導	亀岡警察
	3月	児 P 情報教育講座「子どもたちを取り巻くネットトラブル」	N I T情報技術推進ネットワーク・P T A
		情 「I S Sの歌」完成	児童・教員
	4月	児 交通安全教室	京都府警(平安騎馬隊)・ 亀岡警察
	5月	児 交通安全教室・自転車運転免許証取得の取り組み	中部保育所・亀岡警察・ 交通安全対策協議会・ P T A
	6月	会 心の教育推進委員会 (こども110番の家、安全パトロール等 I S Sの取組への協力依頼)	自治会・P T A・民生児童委員・老人会・商工会・ 警察・交通安全対策協議会・社会福祉協議会・青少年育成協議会等
		児 いじめ防止フォーラムの開催	P T A・自治会・地域住民等
		会 区長会 (こども110番の家、安全パトロール等 I S Sの取組への協力依頼)	自治会長・各区区長

年	月	取組内容	
	6月	会 地域懇談会 (安全マップ情報収集、安全パトロールの依頼等)	連携機関・参加団体等 PTA・自治会・民生児童委員等
		P 水難救助講習会	PTA
	7月	児 自転車運転免許証交付式・安全指導	亀岡警察
		研 I S S研修会への参加 (市民ホール)	職員
		情 セーフコミュニティ研修(亀岡市教育研究所)	亀岡市内小中学校養護教諭
	8月	会 学校安全対策委員会	安全協力員
		会 穴太通学路検討・現地調査	自治会
		会 民生児童委員懇談会(子どもの状況、安全対策等)	民生児童委員
		情 K B Sラジオ出演 (I S Sの取組紹介)	職員
	9月	情 敬老会	自治会・老人会
		情 亀岡警察防犯ステーション会議	亀岡警察
	10月	児 交通安全子ども自転車大会 (亀岡市大会)	交通安全対策協議会
	11月	I S S事前審査	
	11月	研 全国学校安全研究大会参加	職員
	12月	児 安全教室	亀岡警察署
		児 避難訓練 (緊急地震速報時の避難) 煙の中の避難訓練	亀岡消防署
	2月	研 京都市立養徳小学校研究発表会参加	職員
		研 埼玉県北本市立中丸小学校・宮内中学校 I S S現地審査参加	職員
	3月	会 学校安全対策委員会	安全対策協力員

児 児童を対象とした取組 会 会議 研 職員研修 情 情報発信 P P T Aを対象とした取組

第3章

外傷によるけがの状況

1 校内のけが

(1) 軽微なものを含むけがの発生状況

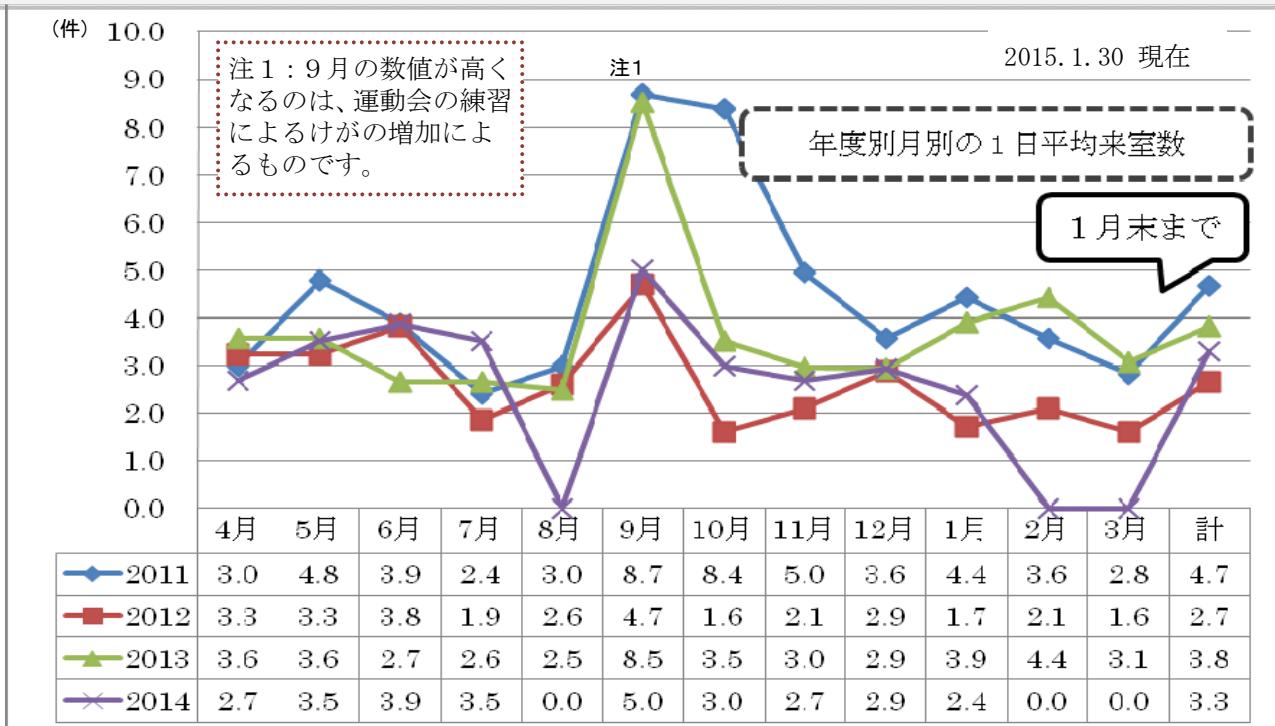
図3-1 けがの総数と1日あたりのけがの件数の推移 (2011年度～2014年度1月) 保健室データより



注1：2012年度は職員体制上、養護教諭が保健室に在駐することができず、職員室に於いて対応していたため記録が残せず、件数が減っています。

注2：2014年1月よりけがの症状を詳しく把握するために、軽微なけがを含む全てのけがについて記録を残すようにしています。

図3-2 1日あたりのけがの件数 年度比較 (2011年度～2014年度1月) 保健室データより



2014年1月から、データを詳しく取るようになりましたが、けがの件数は減少しています。2011年度、2013年度、2014年度比較すると、けがの総数は減少し、1日あたりのけがの数も減少しています。

図3-3 学年男女別けのけの件数 (2014年度) 保健室データより

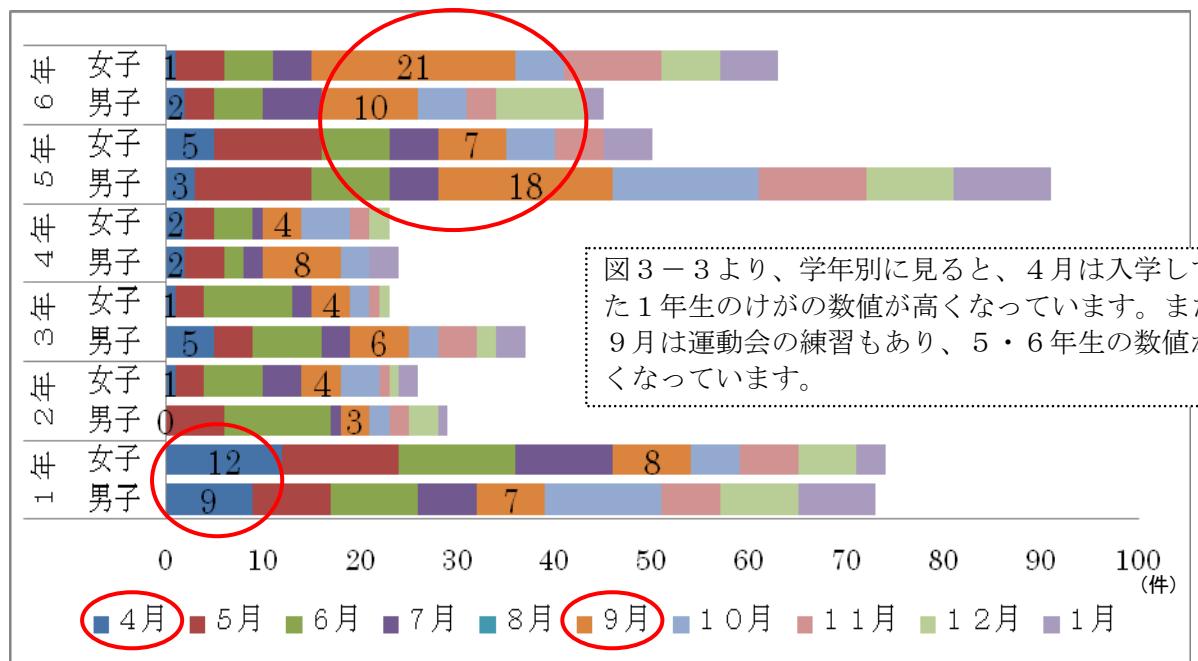


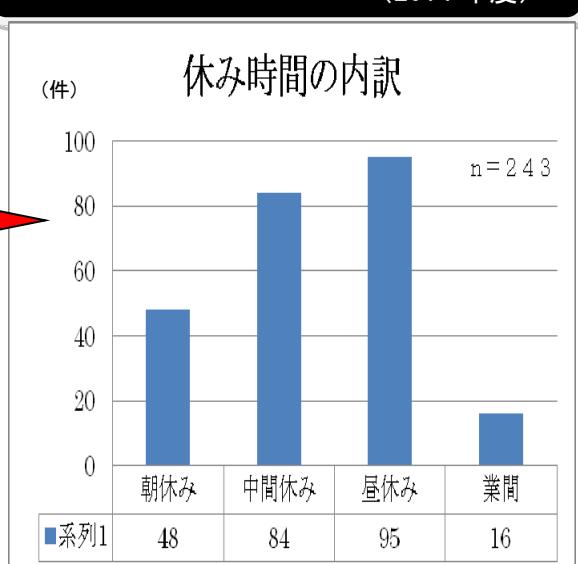
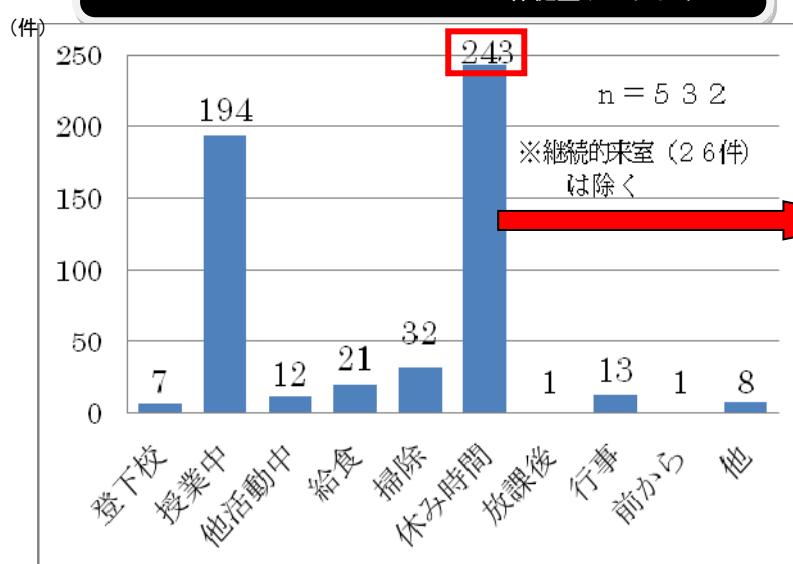
図3-3より、学年別に見ると、4月は入学してきた1年生のけのけの数値が高くなっています。また、9月は運動会の練習もあり、5・6年生の数値が高くなっています。

図3-4 発生時間帯別けのけの件数 (2014年度)

保健室データより

図3-4① 休み時間の内訳 (件)

(2014年度)



※注 n=532はけのけの総数558から継続来室の26件を除いたもの

図3-4より、発生時間帯別けのけの件数をみると、休み時間が最も多く、次いで授業中となっています。休み時間では図3-4①より、昼休み、中間休みけのけをする割合が高くなっています。

図3-5 場所別けがの件数 (2014年度) 保健室データより

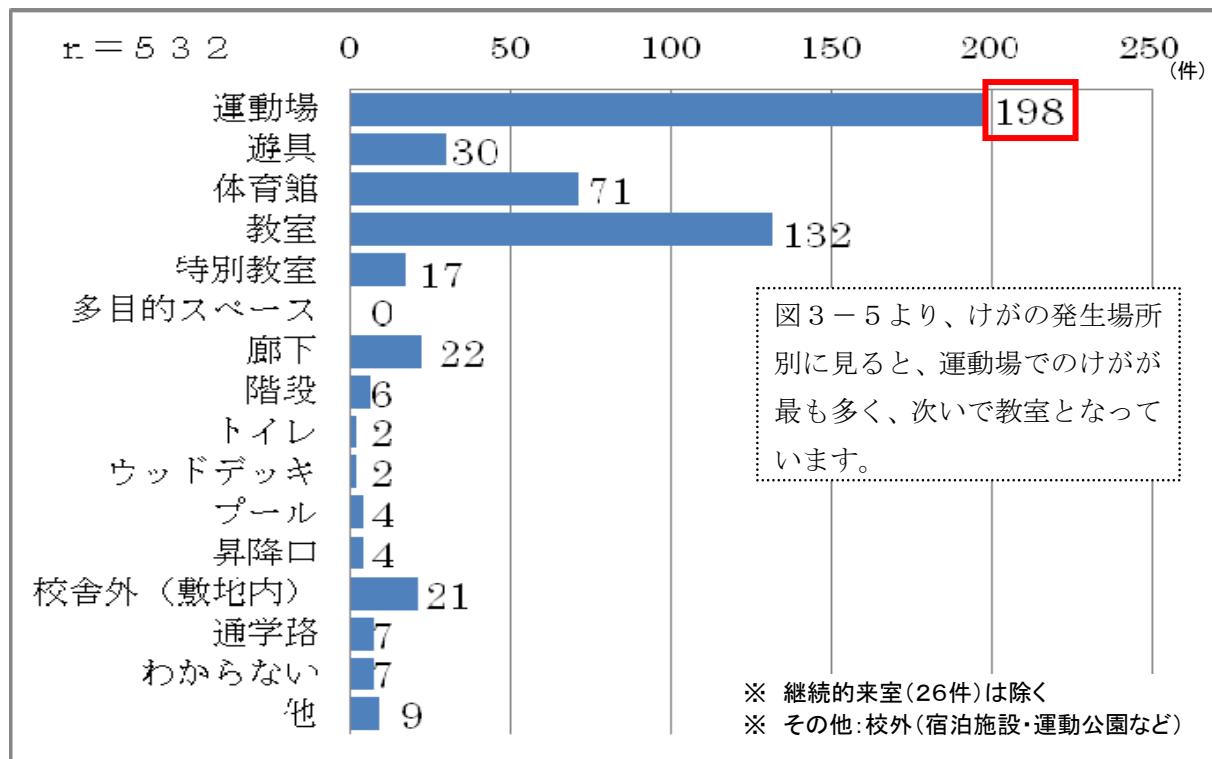


図3-6 けがの種類(件) (2014年度) 保健室データより

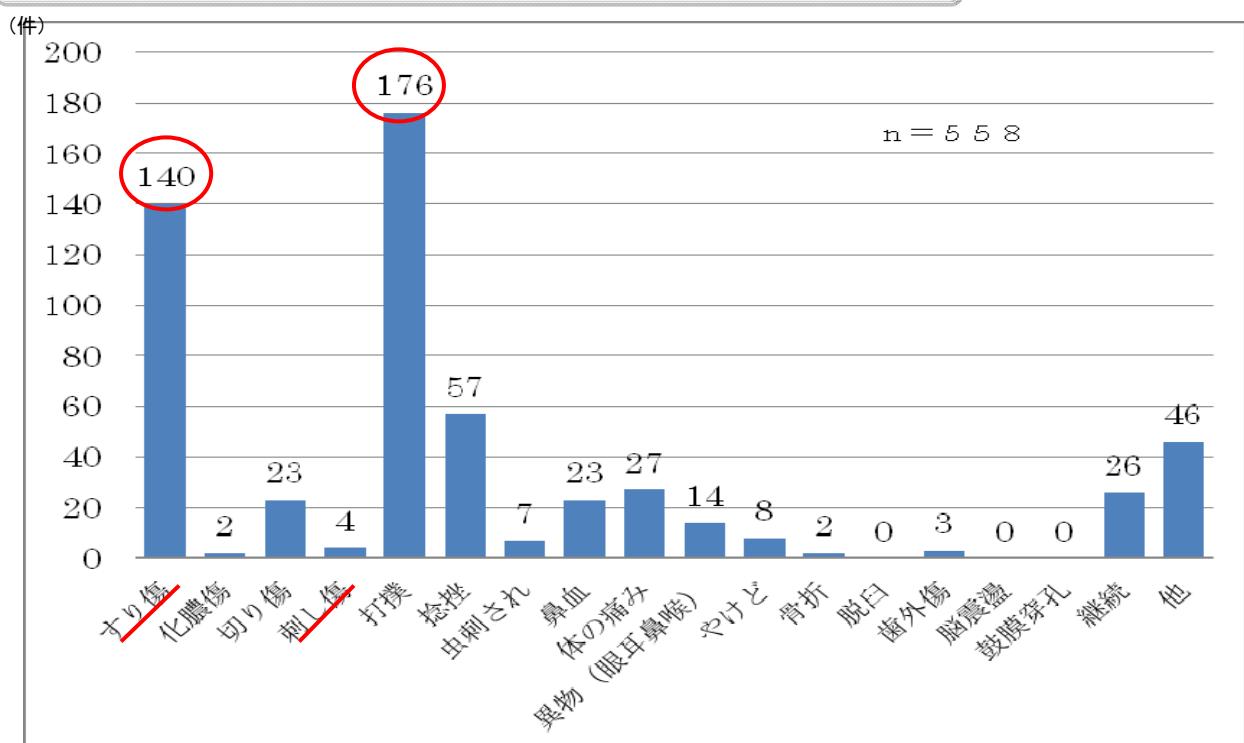
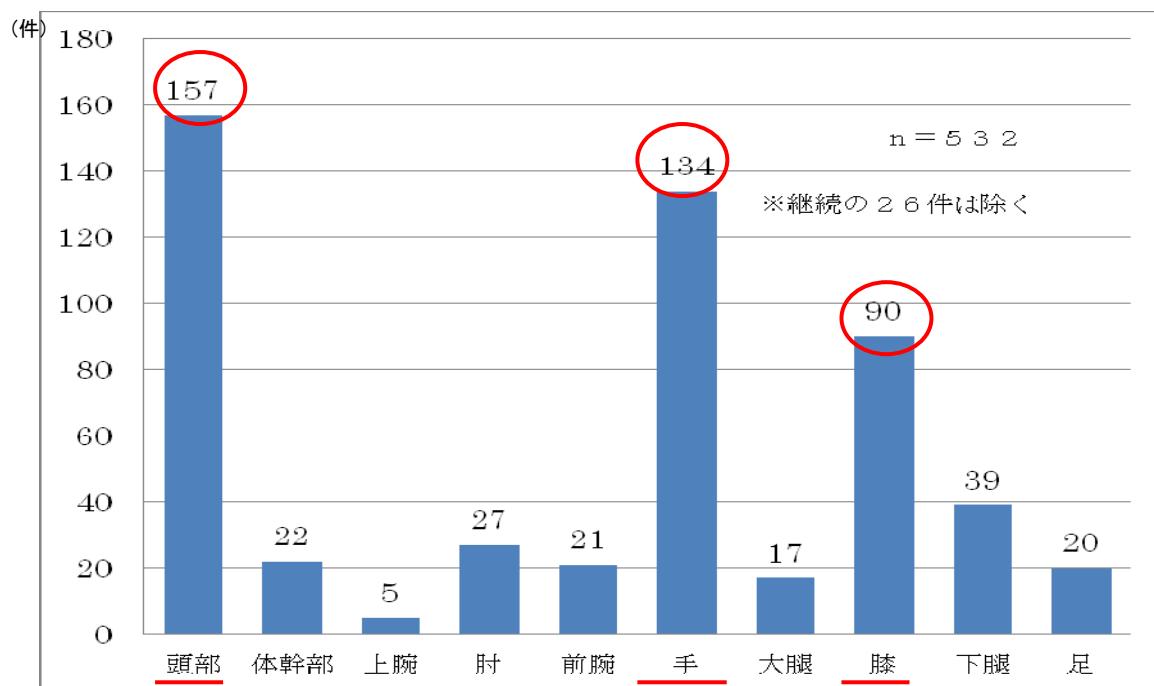


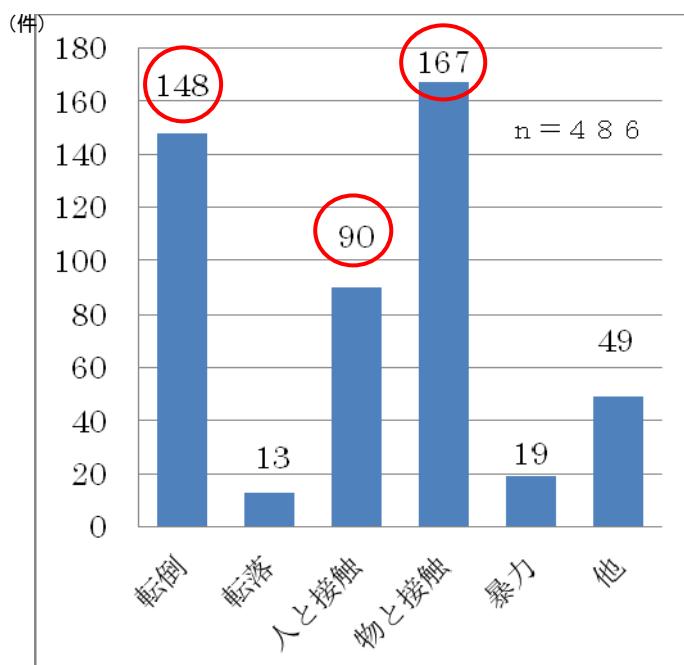
図3-6より、けがの種類では、打撲、すり傷が多いことが分かります。

図3-7 けがの部位（件）（2014年度） 保健室データより



けがの部位別に見ると、図3-7より、頭部、手のけがが多いことが分かります。また、頭部と体幹を合わせると、全体のけがの34%占めています。手のけがが全体の25%であり、頭部体幹をけがする割合が高いことがうかがえます。

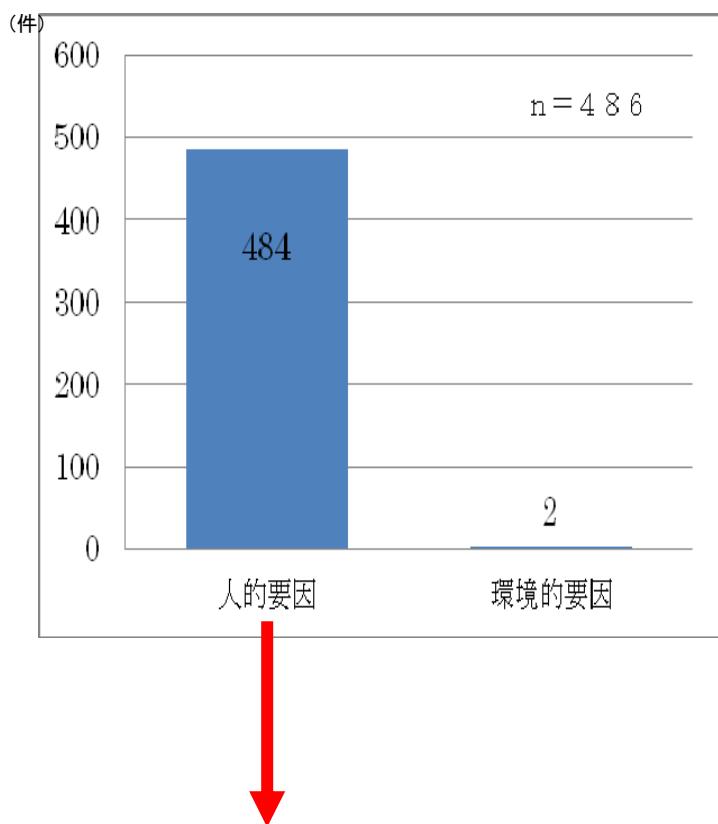
図3-8 直接的起因別（件）（2014年度） 保健室データより



けがの直接的起因でみると、図3-8より、物や人との接触によってけがをする、転倒によってけがをする件数が多いことが分かります。また、その要因の99%が人的要因によるものです。（図3-9）

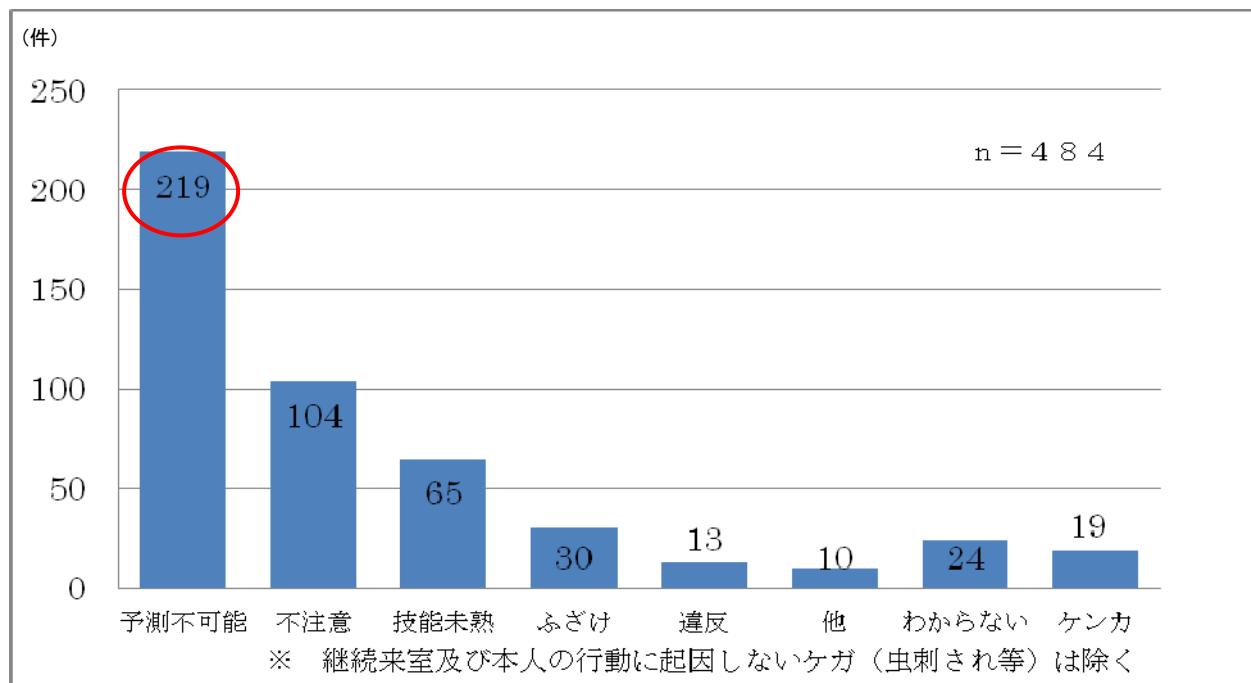
※継続来室及び本人の行動に起因しないけが（虫刺され等）は除く
※暴力にはケンカの他、相手の不用意な行動（急に押す等）を含む

図3-9 けがの要因別（件）（2014年度）保健室データより



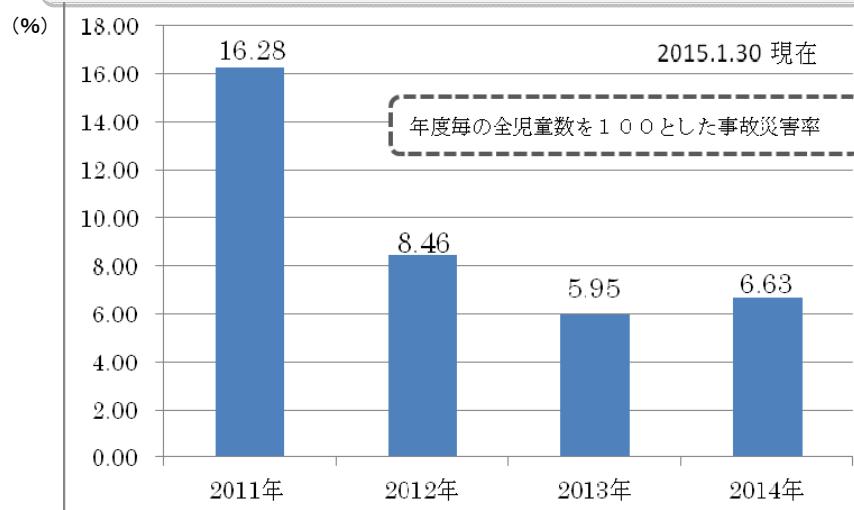
さらに人的要因の内容についてみると、図3-10より、急にぶつかられてバランスを崩す等、予測不可能なけがが約50%を占めています。また少し気をつけていれば防げた不注意のけがは約20%です。

図3-10 間接的起因別（件）（2014年度）保健室データより



(2) 学校事故災害の状況(事故災害報告データーより)

図3-11 事故災害率の推移 (%) (2011年度～2014年度)



事故災害率は2011年度より減少してきていますが、2014年度については1月現在で、昨年度を上回っています。(図3-11) しかしながら、図3-12を見ると、学校から病院へ※搬送する割合は、年々減少し、緊急を要する大きなけがはほとんど起こっていません。

※搬送：医療が必要で、学校から病院へ連れて行くという意味で使用しています

図3-12 搬送率の割合 (%) (2011年度～2014年度)



図3-13 事故災害と搬送数 (人) (2014年度)

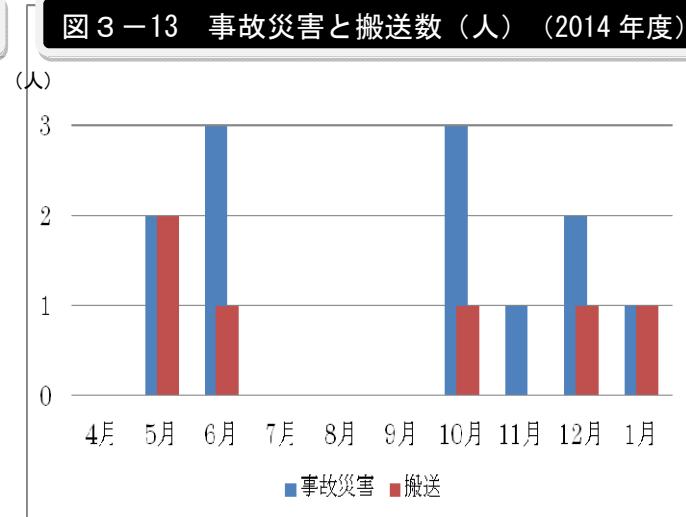


図3-14 傷害別件数 (件) (2014年度)

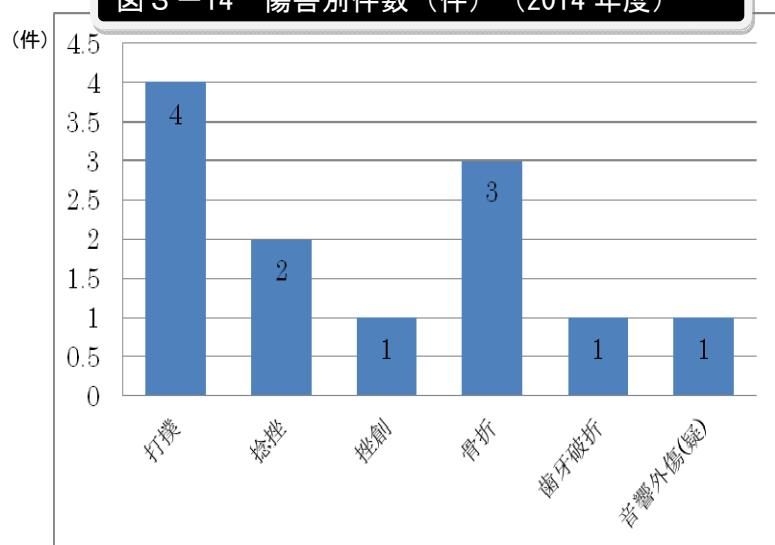
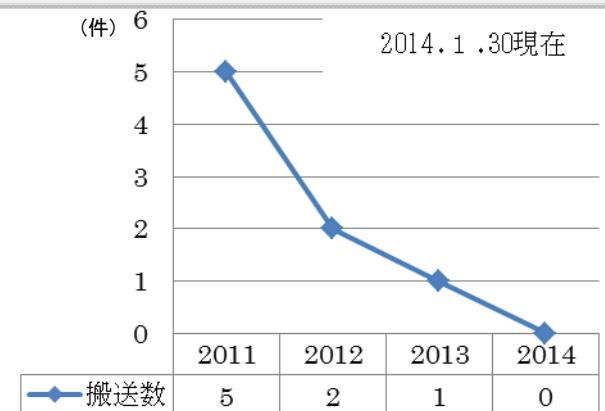


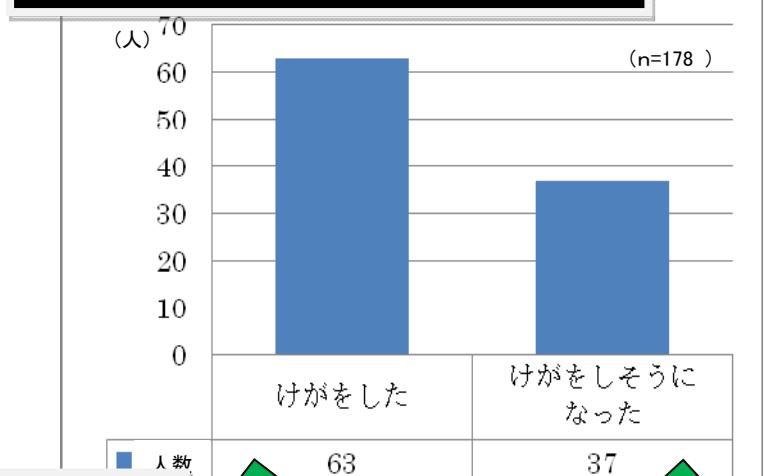
図3-15 トラブルによる搬送 (件) (2014年度)



トラブルによるけがの搬送が年々減少しています。

2 自転車走行時における児童の実態

図3-16 自転車走行時におけるけがの状況



児童にアンケート調査を行ったところ、自転車走行中けがをしたことがある児童が全校の約35%を占めています。また、ヒヤリ・ハット体験についても約20%の児童が経験しています。

図3-17 けがの種別

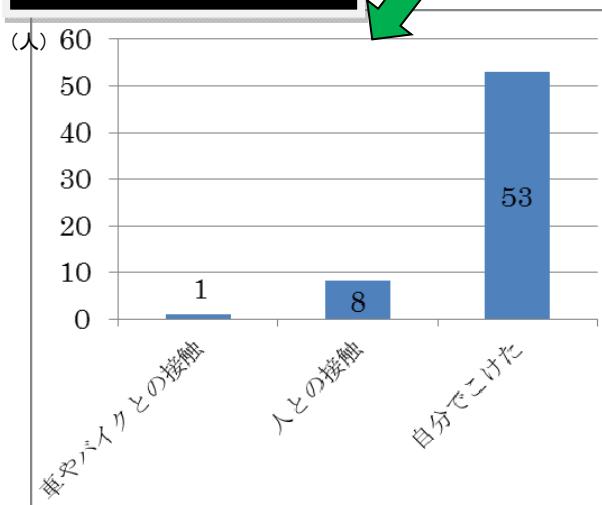


図3-18 けがの種別

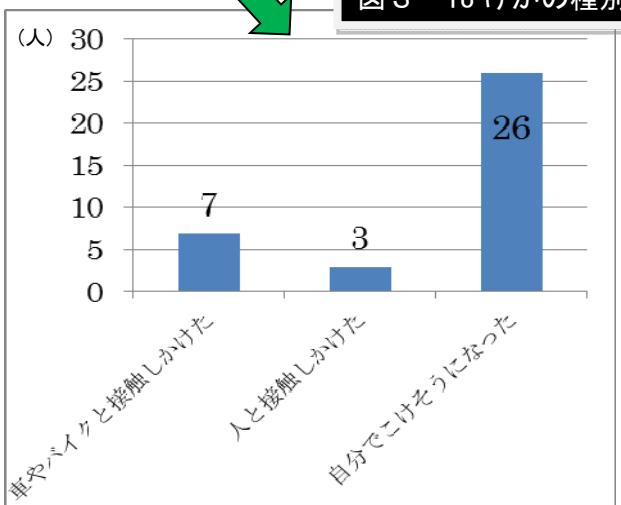


図3-19 けがの原因

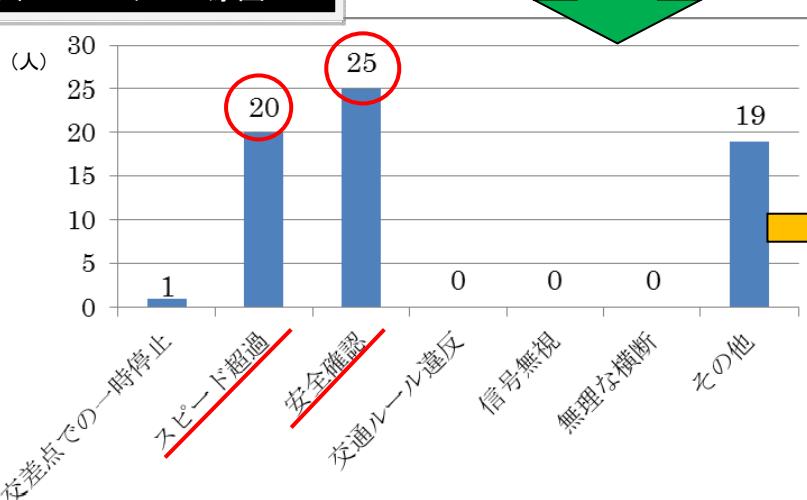
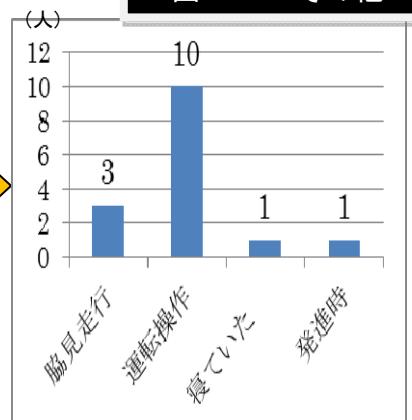


図3-20 その他



(2014年 児童アンケートより)

けがの原因の約70%がスピード超過、安全確認不足等、安全意識にかかわるものでした。また、他の項目では、脇見走行、運転操作ミスに等、運転技術にかかわるものでした。

3 心の健康

いじめは絶対に許されない行為であり、安心安全な学校づくりを進めていくうえで、心の健康を図ることは何より重要なことと位置づけています。

いじめ調査

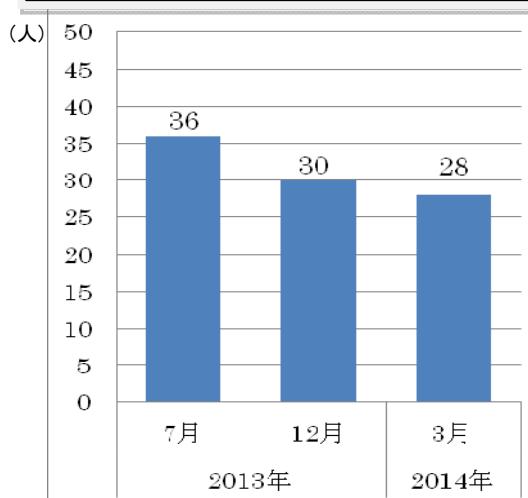
- ① 学期に1回行ういじめアンケート調査（文部科学省）
- ② 年間2回行う児童アンケート（7月、12月）

①いじめアンケート調査

調査の内容：以下のようなことをされて嫌な思いをしたことはありますか。

- ・嫌なことを言われたり、されたりした
 - ・たたかれたり、蹴られたりした
 - ・仲間はずれにされた
 - ・物を取られたり、こわされたりした等
- （※選択項目を要約）

図3-21 いじめアンケート調査（人）



上記の項目に当てはまるのをされた児童の数を見ると、減少してきています。

児童に聞き取りをした結果、継続的なものは12月に1件ありましたが、これも指導の結果、解決しています。

②児童アンケート

（2014年児童アンケートより）

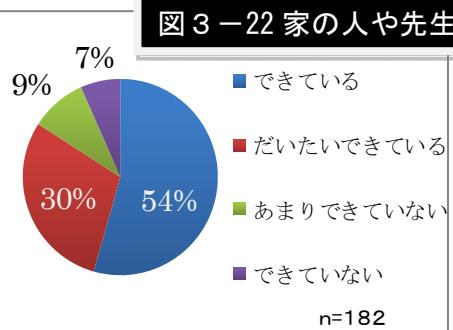


図3-22 家の人や先生に相談する

図3-23 人を傷つける言葉は言ってない

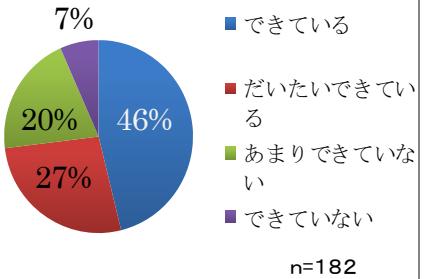
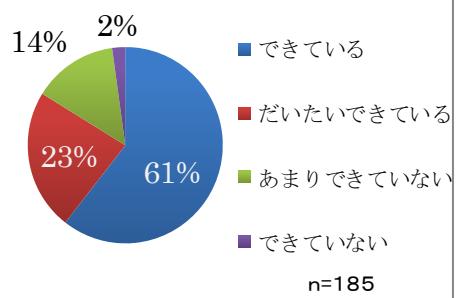


図3-25 やめてと言わされたらすぐやめる



84%の児童が悩みごとを誰かに相談しています。27%の児童が人を傷つける言葉を言っている、16%の児童がやめてと言われてもすぐやめないと答えてています。

4 けがの発生状況の分析と予防対策

(1) 軽微なものを含むけがの発生状況の分析

けがの総数、1日あたりのけがの件数 → 減少
(図3-1, 3-2参照)

① 1年生の4月のけが (図3-3参照)

分析 I

学年男女月別けがの件数の分析

(a) 21件中9件が体育の時間
運動場、遊具でのけが

けがをした場所	運動場		遊具	
直接的起因	転倒	衝突	転倒	衝突
件 数 (件)	5	2	1	1

(b) 21件中4件が休み時間
運動場、遊具でのけが

けがをした場所	遊具		廊下・通路	
直接的起因	転落	衝突	転倒	衝突
件 数 (件)	1	1	1	1

けがの間接的起因：鬼ごっこでタッチをされた カーブを曲がりきれなかった、
走っていてよけられなかつた 遊具でバランスを崩した
前方不注意でぶつかった等

運動場が広くなり、感覚がつかめない
気持ちに体がついていけない
新しい施設に慣れていない等

予防対策

自分の体をしっかり支える
力の育成

(c) 21件中7件 直接起因がはっきりしない痛み、切り傷、打撲

(d) 21件中10件 手当を必要としないもの

けがの手当だけが目的ではなく、精神的な不安から保健室を訪れている

予防対策

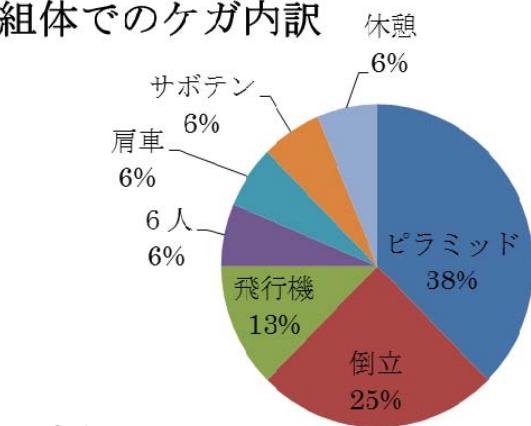
保育所・幼稚園・小学校の
円滑な連携

② 5・6年生の9月のけが
(図3-3参照)

表2-1

学年	5年生		6年生		合計
	男子	女子	男子	女子	
けがの総数(件)	18	7	10	21	56
運動会の練習中のけが(件)	6	2	5	12	25

組体でのケガ内訳



25件中21件が
組立体操中のけが

組み立て体操の中でも、ピラミッドでのけがが38%を占めています。
上に人が乗ることで負荷がかかり、それを支えきれずに起こるけがや人の上に
乗りバランスがとれずに起こるけがが多く、倒立や飛行機といった技において
も同じことがいえます。

予防対策

からだのバランス力や体をしっかりと支える力の育成

けがの部位別件数

(図3-7参照)

頭部のけが
30%



体幹のけが
4%

全体のけがの
34%

けがの部位別に見ると、頭部と体幹を合わせると、全体のけがの34%占めています。手のけがが全体の25%であることから、頭部体幹をけがする割合が高く、転倒したときに、手がつけない、手をついても体が支えられないといった理由が考えられます。

予防対策

自分の体をしっかりと支える力の育成

① けがの直接的起因

(図3-8、3-9、3-10参照)

転倒によるけが
30%

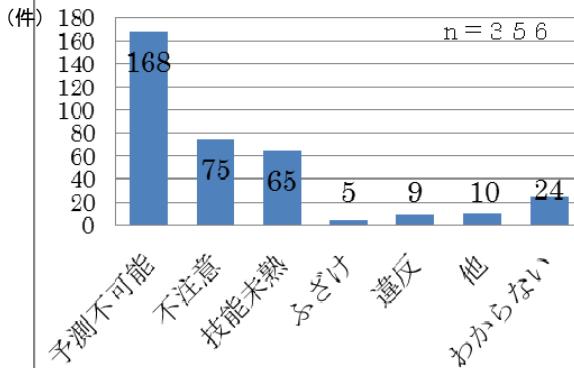
物との接触によるけが
34%

人との接触によるけが
19%

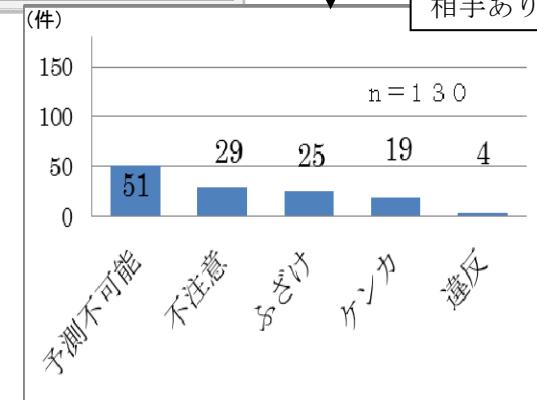
単独のけが

相手のあるけが

単独



② けがの間接的起因(件)



単独のけが、相手のあるけがのどちらも、間接的起因は予測不可能(防ぎにくい)なけがが多いことが分かります。物や人との接触においては、けがをした方は防ぐことは難しかったとしても、「物が飛んできた」「急にぶつかられた」といった場合には、物を投げた側、ぶつかった側が自分の行動の危険性を考えることができれば、けがに至らなかつたケースがあった可能性があります。

予防対策

危険を予測する力の育成

分析IV

学校事故災害の分析

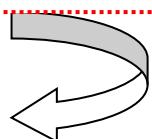
けがの間接的起因

(図3-11～3-15参照)

図3-15 トラブルによる搬送（件）（2014年度）



児童が落ち着いてきたことによって、搬送数が減り、特にトラブルによって、相手にけがをさせ搬送することが今年度はありません。



予防対策

今後も児童間のトラブルを減らしていくためには、心の育成が必要

分析V

自転車走行時のけがの分析

自転車走行時のけが

(図3-11～3-15参照)

自転車走行中にけがをしたことがある児童が約35% ヒヤリハット体験をした児童が約20%

けがをした原因是、スピード超過、安全確認不足等、安全意識等運転技術に関わるもの

予防対策

自転車の運転技術、安全意識の育成

予防対象VI

心の健康

心の健康

(図3-21～3-25参照)

少しづつ減少していますが、嫌な思いになることをされた児童が約16%います。

人を傷つける言葉を言ってしまう、やめてと言われてもやめられない、これらはいじめへつながる恐れがあります。

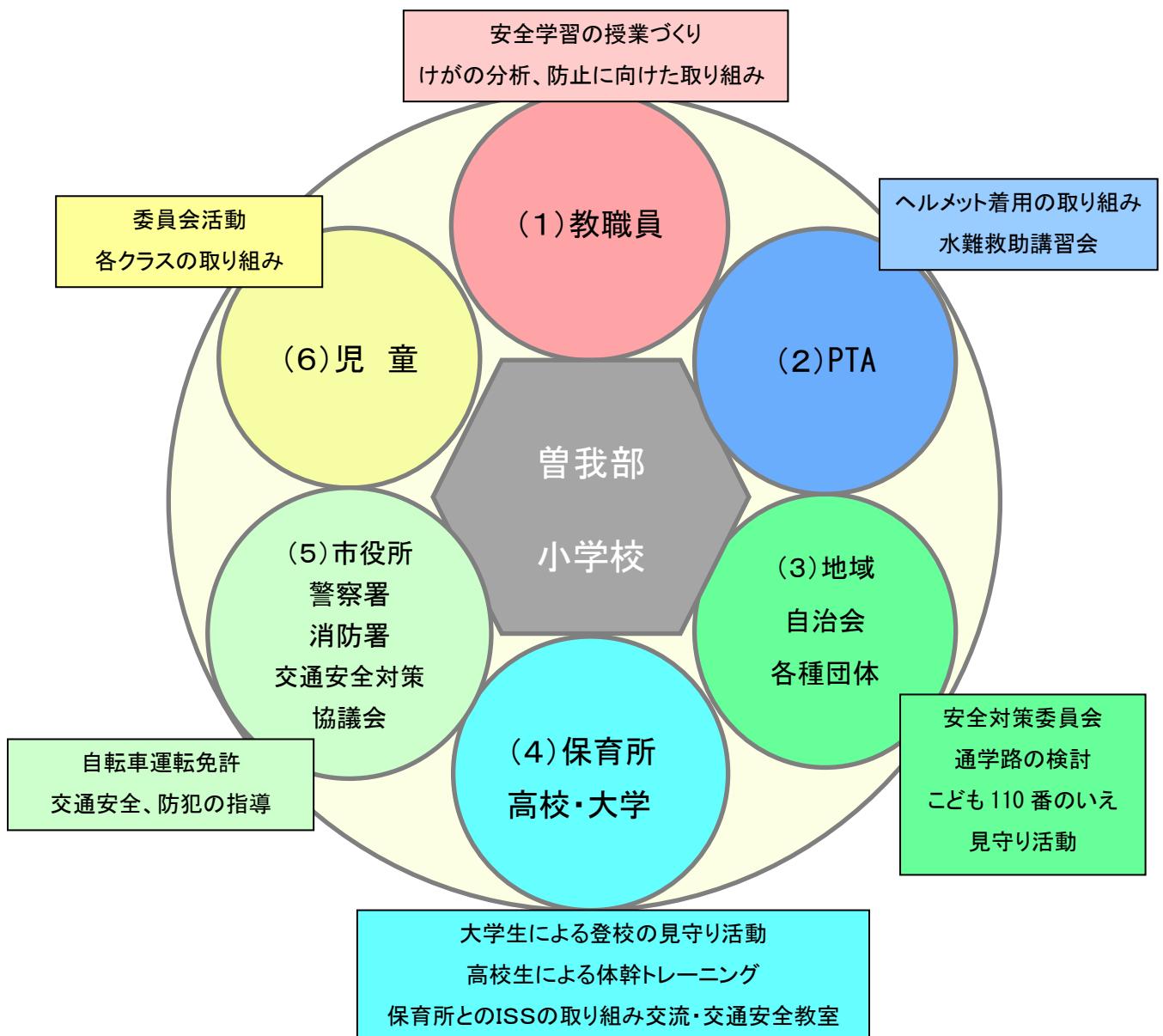
予防対策

心の教育をしっかりと進めることが必要

指標1 協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている

1 インターナショナルセーフスクールの協働体制

安心・安全な学校づくりに向け、曾我部町自治会、PTA、各種団体等、多くの地域の方々とともに、セーフスクールの取組を進める協働体制が確立しています。



2 取組の概要

(1) 教職員の協働体制



安心安全な学校づくりが、すべての学校教育の基盤になるとと考えています。そこで I S S 推進部を研究の土台として位置づけ、授業研究、環境づくり、児童活動、地域連携の 4 つの柱で取組を進めています。

授業研究

環境づくり

安全教育に関わる教材の開発・研究を行っています。授業研究会を開き授業内容について話し合ったり、各クラスで行った授業の交流をしたりする中で、安全への理解や意識の向上を目指した授業づくりを進めています。

I S S の取組の内容や進捗状況、結果などを校内に掲示しています。目に見える形にすることで、成果や課題が明らかとなり、活動を見直す手立てとして活用しています。また児童、教師、地域の方等が取組の内容を共有でき、I S S の理解や安全に対する意識の向上につながっています。

けがの分析・改善策の検討



安全教育の授業研究



児童活動

児童のけがの実態や安全に対する意識をデータや日常の行動観察をとおして分析し、児童とともに取組の内容を考えています。児童自らが気付き、児童主体の活動になることを目指しています。

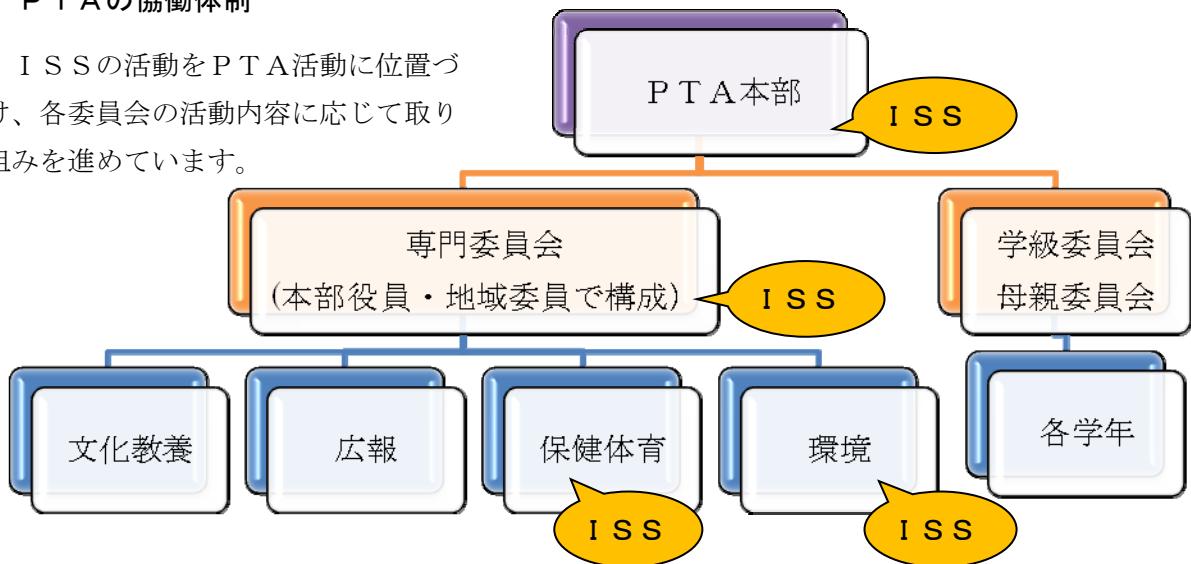
児童の取り組みを掲示

地域連携

PTA、自治会、各団体の方々と連携を図りながら安全マップ作りや通学路の検討、見守り活動等を進めています。また、月に一度 I S S ニュースを発行し I S S の取組の紹介や交通安全等の啓発を行っています。

(2) P T Aの協働体制

I S Sの活動をP T A活動に位置づけ、各委員会の活動内容に応じて取り組みを進めています。



PTA本部

自転車ヘルメット着用運動、登校の見守り運動、いじめフォーラム、自転車運転免許証の審査等、ラジオでのI S S広報等



環境委員会

地域に配るプランターの苗植え (PTA・児童)



保健体育委員会

水難救急法講習会の開催 (PTA・教員)



専門委員会(地域委員)

登校の見守り運動、地域の危険箇所調べ等

(3) 地域自治会各種団体の協働体制

通学路の検討

(指標 3 6-4)

児童の通学路の安全について検討し、危険なところは、市や府に対し改善の要望を出しています。



自治会、警察等の協力により、見通しが悪い横断歩道に、歩行者からよく見えるようにカーブミラーが設置されました（2015年2月）

民生児童委員懇談会 安全対策委員会

(指標 3 6-5)

民生児童委員の方々の懇談会や安全対策委員会では、地域で子どもたちの安全を守るために話し合いを行うとともに、ISSの取り組みの状況を説明し、理解と協力をお願いしています。代表の方々から、それぞれの区の皆さんへ依頼をしていただき、※こども110番のいえや※I(ちゃん)パトロール隊の普及にも積極的協力いただいている。



子どもの見守り活動

(指標 3 6-6)



自転車や車にステッカーを貼り、児童の安全を見守っています。

※こども110番のいえ

子どもたちが身の危険を感じたり、緊急に助けを必要としたとき、地域の方々の自主的な協力によってこれを保護するとともに、警察等への通報を行う緊急場所として、通学路等に設置されたものです。

※I(ちゃん)パトロール隊

登下校時に外に出ていただき、子どもたちの様子を見守っていただく地域の活動です。協力いただける方々には、ステッカーを配っています。

こども110番の家は
校区内で100件を越え、
多くの方にご協力
いただいている。



校門横には、安全協力員の方が毎日常駐し
校内のパトロールをして下さっています。

(4) 保育所・高校・大学との協働体制

中部保育所

同じ曾我部町にある中部保育所とは、交通安全教室をはじめ、お互いの I S S の取り組みを交流するなど保小連携を図り、安全教育においてのスムーズな接続を目指しています。



交通安全教室に参加してくれた園児に本校の I S S のシンボルマークの I (あい) ちゃんシールをプレゼントしました

3月には、1年生の児童が中部保育所に行き、登下校で気を付けることをクイズで紹介したり、お互いの体幹トレーニングをやってみたりと I S S の取り組みの交流をしました。



京都府立南丹高等学校



4・5・6年生を対象に、南丹高校の生徒の皆さんから持久走指導を受けています。その中で教えてもらった体幹を鍛えるトレーニングを、体育の時間に取り入れています。



京都学園大学



亀岡警察と京都学園大学が連携を図り、学生ボランティアの方々が、本校の通学路での見守り活動を行っています。

(5) 市役所・警察署・消防署・交通安全対策協議会の協働体制

交通安全対策協議会

自転車運転免許証取得・交通安全教室の取り組み、登校の見守り等



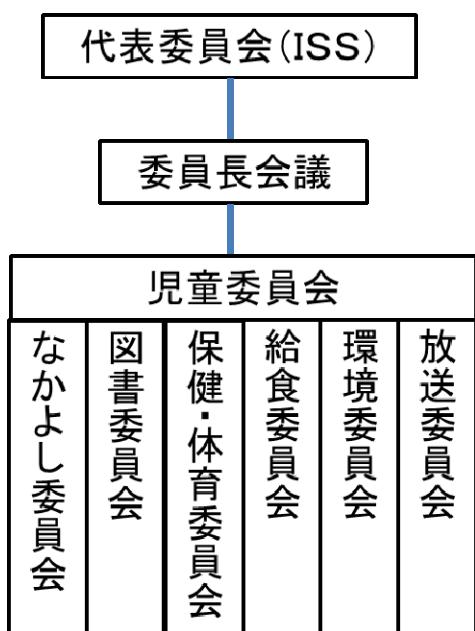
亀岡警察署

交通課の方々による交通安全教室、自転車運転免許証取得の取り組み等



交通安全教室、自転車運転免許証取得の取り組みをはじめ、年度初めや学期の終わりの安全指導、また、KBS京都ラジオの交通安全のコーナーで、本校のISSの取り組みを紹介するなど、様々な機会に亀岡警察との連携を図っています。

(6) 児童委員会組織



代表委員会が毎月の目標をもとに I S S の活動のテーマを決め、月に 1 回の委員長会議の中で、各委員会でどのような取組ができるか話し合います。委員長会で話し合われたことを受けて、各委員会で活動内容を考えています。どの委員会も、安全な学校づくりに向けて工夫した取り組みをしています。



委員会	活動内容
代表委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の原案作成 ・ISSの広報活動 ・ISS委員会活動の計画、児童集会でのISS活動(憲章、歌)
なかよし委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団活動(なかよし班活動・全校ウォークラリー)の企画・運営等 ・いじめフォーラムの運営
図書委員会	ISS図書の管理・コーナー作り
保健・体育委員会	校内だけがの分析と結果の掲示等
給食委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・校内安全点検 ・なかよし班給食
環境委員会	花作り、花の世話、地域へのプランター配布
放送委員会	ISSの歌、ISSに関わる各委員会活動の広報活動

指標2 協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤が整備されている

1 第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～（2011～2020）

亀岡市は、2011年1月、第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～をスタートさせました。

この計画は約10年間のまちづくりの最上位の計画（羅針盤）であり、多くの市民の参画と協働により策定されました。

まちづくりの基本方針にセーフコミュニティが明記され、市民が望む都市像として、セーフコミュニティの推進を掲げています。

また「第2節 就学前教育・学校教育」では、児童生徒の安全確保と、自らが学び行動する児童の育成を掲げています。



2 亀岡市教育振興基本計画～かめおか教育プラン～（2013～2020）

亀岡市教育委員会では、将来を展望し、中長期的な視点に立って地域の実情に合った教育活動をより効果的に実施していくため、目指すべき教育の基本的な方向性や重点施策などを明らかにした「亀岡市教育振興基本計画～かめおか教育プラン～」を策定しました。

「目標4 安全安心で充実した教育環境の整備」では、安全で安心できるまちづくりに向け、学校、地域、保護者などが連携・協力して子どもたちを見守る活動と子ども自らが身を守れるよう安全指導を充実させるために、セーフスクールの推進を掲げています。



基本理念

ともに学び ともに育ち ともに生きる かめおか教育の創造

めざす
子ども像

ほっかほか心 ふるさと大好き かめおかっ子

3 セーフコミュニティとのつながり

亀岡市では、「安全・安心こそ最大の福祉である。」との強い信念の下、2006年からセーフコミュニティ活動に取り組んでいます。取組体制としては、セーフコミュニティ推進協議会を推進母体に、7つの対策委員会の活動と、自治会主導のモデル地区活動の展開です。

そしてセーフスクールについては、「学校の安全対策委員会」と連携しながら活動を推進しています。



指標3 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動をしていること

- 【ねらい 1 児童の危険予測・回避能力の育成 4 学校の指導体制
 2 交通安全意識の向上 5 ハイリスク対策
 3 こころの教育 6 環境整備

		児童	教員	保護者・地域
学校内	校舎内	1-1 1-2 1-3 1-4 1-5 1-6 1-7 1-8 1-9 1-10 1-11 1-12 1-13 2-1 2-2 3-1 3-3 3-4 4-6 4-7 5-1 5-2 5-3 5-4 5-5	3-2 4-1 4-2 4-3 4-4 4-5 4-7	1-13 3-2
		1-1 1-2 1-3 1-6 1-7 1-8 1-9 1-10 1-11 1-13 2-1 2-2 3-1 3-3 4-6 4-7 5-1 5-2 5-3 5-4 5-5	3-2 4-1 4-2 4-3 4-4 4-5 4-7	1-13 3-2
		1-6 1-9 1-10 1-13 2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-8 2-9 3-1 5-1 5-2 5-3 5-4 5-5 5-6 5-7 6-1 6-2 6-3 6-4	3-2	1-13 3-2 3-5 6-1 6-2 6-3 6-4 6-5 6-6
		1-6 1-9 1-10 1-13 2-3 2-4 2-5 3-1 5-1 5-2 5-3 5-4 5-5	3-2	1-13 3-2 3-5 6-6
学校外	通学路	1-6 1-9 1-10 1-13 2-3 2-4 2-5 2-6 2-7 2-8 2-9 3-1 5-1 5-2 5-3 5-4 5-5 5-6 5-7 6-1 6-2 6-3 6-4	3-2	1-13 3-2 3-5 6-1 6-2 6-3 6-4 6-5 6-6
		1-6 1-9 1-10 1-13 2-3 2-4 2-5 3-1 5-1 5-2 5-3 5-4 5-5	3-2	1-13 3-2 3-5 6-6

凡例：①プログラム名 ②対象 ③場所 ④実施者 ⑤概要

※二重線部分は、改善点や大切にしているポイントです。

1 児童の危険予測・回避能力の育成

1-1	① けが人調べ【新規】			
	② 児童	③ 学校内	④ 児童・教員	
	⑤ 保健委員会の児童が、毎日何人けがをしたかを養護教諭のデータをもとに数え、掲示板にグラフで表示しています。 <u>児童自身が行うことで意識が高まります。</u>			



1-2	① けがマップ【新規】			
	② 児童	③ 学校内	④ 児童・教員	
	⑤ けがをした児童自身が、校内地図のけがをした場所にシールを貼ります。雨の日と晴れの日で色を分け、保健委員会が結果の分析を行っています。けがをした児童自身が行動を振り返る機会になっています。			



1-3	① 保健室利用カード【改善】			
	② 児童	③ 学校内	④ 児童・教員	
	⑤ けがをした児童は、保健室利用カードにけがをした場所や時間、 <u>なぜけがをしたのか、けがをしないようにするにはどうすればいいか等</u> を養護教諭とともに考え記入します。			



1-4	① 児童による教室の安全点検【新規】			
	② 児童	③ 教室	④ 児童	
	⑤ 給食委員会の児童が、教室でのけがを防ぐために、安全に過ごすために必要な点検項目を決め、週1回点検をしています。点検した結果はクラスに伝え改善をお願いしています。 <u>児童自身が点検項目を決めることを大切に考えています。</u>			



1-5	① 校内環境マップ作り【新規】			
	② 児童	③ 校舎内	④ 児童	
	⑤ 環境委員会の児童が、校舎内を点検し、危険な場所を地図にまとめて掲示しています。 <u>児童の視点で安全を考えることを大切に取り組んでいます。</u>			



1-6	① 安全学習【改善】			
	② 児童	③ 学校内外	④ 児童・教員	
	⑤ 年間指導計画に基づき、総合学習、学級活動等の時間を使って安全学習をしています。校区内の交通安全、防犯、災害等、教材を開発して児童のより身近な問題として学習を進めています。また、ゲストティーチャーとして、警察をはじめ、各種団体の方との連携を図っています。			



1-7	①	児童集会【改善】				
	②	児童	③	学校内	④	
	⑤	月に1回、各委員会で取り組むISSの活動の説明やけがの予防にむけた発表をし、全校児童で取組を進められるようにしています。集会の発表を聞いてクラスで取り組みを進めています。				
1-8	①	今週の目標の放送【改善】				
	②	児童	③	学校内	④	
	⑤	月曜の朝に今週の目標とその設定理由を、なかよし班の児童が全校に向けて放送します。放送を聞いて自分はどういうにその目標に取り組むのかをノートに記入します。放送委員会を通じて、様々なISSの活動を全校に発信しています。				
1-9	①	長期休業前の安全指導				
	②	児童	③	学校内外	④	
	⑤	終業式に、亀岡警察の方から、休み中の安全な過ごし方について話を聞きます。				
1-10	①	非行防止教室				
	②	児童	③	学校内外	④	
	⑤	年に1回5・6年児童を対象に、警察の方々による非行防止や犯罪に巻き込まれないための指導を行っています。				
1-11	①	体幹を鍛える体操【改善】				
	②	児童	③	学校内	④	
	⑤	南丹高校の生徒による陸上教室で、体幹を鍛える体操メニューを取り入れています。高学年児童だけでなく、教員が学ぶことで他の学年においても、日常の体育の準備体操等に取り入れています。				
1-12	①	清掃時間におけるぞうきんがけ【改善】				
	②	児童	③	校舎内	④	
	⑤	清掃時間におけるぞうきんがけについては、しっかりと自分の体が支えられるようにすることを目標に、膝をあげてふくようにしています。				
1-13	①	安全マップづくり【新規】				
	②	児童・地域	③	学校内外	④	
	⑤	校区内の危険箇所やこども110番の家を地図に書き入れ、児童と教員とでどんな危険があるか確認しています。自分の身近な地域の危険箇所を知っておくことはとても大切だと考えています。				

2 交通安全意識の向上

2-1	① 交通安全教室【改善】					
	② 児童		③ 学校内	④ 教員・警察・PTA・交通対策協議会等		
	⑤ 1年生は、 <u>中部保育所5歳児クラスとともに</u> 、安全な歩き方を中心とした安全教室を実施し、2・3年生については、安全な自転車の乗り方について、学びました。					
2-2	① 自転車運転免許証取得の取り組み【改善】					
	② 児童		③ 学校内	④ 教員・警察・PTA・交通対策協議会等		
	⑤ 以前の自転車の乗り方についての学習から、さらに知識技能を高めるために、 <u>4～6年生は、自転車運転免許証取得テストを受ける取り組みに変更しました</u> 。内容は、交通安全に関する筆記テスト、安全走行テスト、技能走行テストの3つで、得点に応じた免許証（ABCの3段階）が発行されます。					
2-3	① ヘルメット着用の取り組み【新規】					
	② 児童		③ 学校外	④ PTA・教員		
	⑤ PTA本部を中心に、自転車ヘルメットの着用を呼びかけています。また定期的にヘルメット着用率を調べ、校内に掲示しています。					
2-4	① 交通安全教室					
	② 児童		③ 学校外	④ 警察・教員		
	⑤ 4月、新しい登校班長になり、新1年生も入学してくることから、安全な登下校について、教員が正しい見本を見せながら指導します。					
2-5	① PTAによる朝の見守り活動					
	② 児童		③ 通学路	④ PTA		
	⑤ 月に1回、PTA本部役員と地域委員が担当地域で、児童が安全に登校できるよう、見守り活動を行っています。					
2-6	① 地域住民による朝の見守り活動					
	② 児童		③ 通学路	④ 民生児童委員・区長・老人会等		
	⑤ 毎日、地域の方々が横断歩道等、危険な場所に立ち、児童が安全に登校できるよう誘導を行っています。					
2-7	① 登校指導【改善】					
	② 児童		③ 通学路	④ 教員		
	⑤ 月に1度、校区内のポイントに立ち、児童が安全に登校できるよう指導を行っています。また学期に1回、 <u>PTAの地域委員さんと教員</u> と一緒に指導にあたっています。					

2-8	①	下校指導・下校パトロール			
	②	児童	③	通学路	④ 教員
	⑤	児童が安全に下校できるよう、担当教員が週2回程度、毎月第3火曜日は全職員で見回りを行っています。			



2-9	①	一斉下校			
	②	児童	③	通学路	④ 児童・教員
	⑤	児童は下校前に、登校班ごとに並んで待ち、教員の指示によって1班ずつ下校します。児童が一列に並んで校門を出るよう、全職員で見送ります。			



3 こころの教育

3-1	①	いじめ防止フォーラム【新規】			
	②	児童	③	学校内外	④ 児童・教員・PTA・自治会等
	⑤	いじめのない学校を目指し、児童・PTA・地域の方々が一同に集まり、それぞれの立場で意見交流します。			



3-2	①	講演会			
	②	児童・PTA・地域	③	学校内外	④ 教員・PTA・自治会
	⑤	命の大切さや、いじめ防止等、テーマを決めて講演会を開催しています。			



3-3	①	異年齢集団活動（なかよし班活動）			
	②	児童	③	学校内外	④ 児童・教員
	⑤	異年齢集団による活動で、6年生児童をリーダーに縦割り班をつくり遊びや給食交流、大縄大会等を行っています。			



3-4	①	ボランティアによる本の読み聞かせ			
	②	児童	③	学校内	④ ボランティアサークル
	⑤	低学年は週に1回（1年生については複数回）高学年は月に1回、朝の読書タイムの時間に読み聞かせを行っています。また、月に2回、昼休みに図書室で「お話の会」を開き、いろいろな本の読み聞かせを行っています。			



3-5	①	地域へ花のプランターを配布【新規】			
	②	地域	③	学校外	④ 児童・教員・PTA
	⑤	<u>環境委員会の児童とPTAの環境委員が一緒にプランターに植えた花を、地域の施設メッセージを添えて配っています。</u>			



4 学校の指導体制

4-1	①	安全点検【改善】			
	②	教員	③	学校内	④ 教員
	⑤	月に1回、学校内の安全点検を点検項目にしたがって全教員で行っています。特に遊具については全職員で点検をしています。			



4-2	①	週ごとの目標の設定【新規】			
	②	教員	③	学校内	④ 教員
	⑤	毎週月曜日と金曜日の放課後に終礼を持ち、児童の様子や課題点を交流し、1週間の目標の設定と、その振り返りを行っています。			



4-3	①	安全教育の年間指導計画の作成【改善】			
	②	教員	③	学校内	④ 教員
	⑤	各教科、道徳、学級活動、総合学習等に安全学習を位置づけ、年間の指導計画を作成しています。			

ISS年間学習計画(1)年						
項目	月	4	5	6	7	8
月	心の教育	学校生活を気持ちよく		みんな仲良く		
日曜日	安全教育	安全な夏下校	施設・道具の安全な使い方			
学校行事	生活・心	体操式、入学式	体操式・修学旅行 会場ワークリー	ゴールデン・ウイーク学習 会場ワークリー		
助成	音楽教室					
文	交通安全		交通安全(運転免許証)	交通安全(運転免許証)		
災	避難訓練(地震・火災)					
園庭	あかるいこども			なんていたらいいのかな		

4-4	①	安全教育の教材研究・授業研究会【改善】			
	②	教員	③	学校内	④ 教員
	⑤	学期に1回、安全教育の授業を公開し、授業内容の検討を行っています。また、積極的に地域教材の開発に取り組んでいます。			



4-5	①	けがの分析・改善策の検討【改善】			
	②	教員	③	学校内	④ 教員
	⑤	日常的なけがの報告や分析は、週ごとの終礼の時間や、月に1回の健康安全部会の中で行っています。また夏休み等の研修では、データとともにISSの取組の見直しを行っています。			



4-6	①	児童アンケート【新規】			
	②	児童	③	学校内	④ 教員
	⑤	ISSの取組の効果を検証するため、年2回のISSアンケートを実施しています。また学期に1回いじめアンケートを実施し、児童の状況を把握しています。			

平成26年度 安全に関するアンケート調査 12月						
()年 名前()						
★ あてはまるところに○をつけましょう。						
1 生活安全						
1 ろうかはあるいろいろ						
1	1 できている	2 だいたいできている	3 あまりできていない	4 できない		
2 ろうかは、みぎがわをとおっている	1 できている	2 だいたいできている	3 あまりできていない	4 できない		
3 かいたんは、一andanづのぼりおりしている	1 できている	2 だいたいできている	3 あまりできていない	4 できない		
4 くつは、げたばこにそろえて入れている	1 できている	2 だいたいできている	3 あまりできていない	4 できない		
5 ゆうぐは、ただしくつかっている	1 できている	2 だいたいできている	3 あまりできていない	4 できない		

4-7	①	人権学習参観日			
	②	児童・教員	③	学校内	④ 教員
	⑤	年に1回人権学習の授業を保護者等に公開し、ともに人権について考える機会としています。			



5 ハイリスク対策

5-1	①	避難訓練【改善】				
	②	児童	③	学校内外	④	
	⑤	大地震やそれに伴う火災を想定した避難訓練を学期に1回行っています。緊急地震速報による訓練や、 <u>煙の中を避難する訓練</u> 等を行っています。				
5-2	①	児童への防犯ブザーの配布				
	②	児童	③	学校内外	④	
	⑤	入学児童に防犯ブザーを配布しています。ランシリュックに付けて登校するよう保護者に協力を求めていきます。				
5-3	①	特別支援学級の児童に対する理解教育				
	②	児童	③	学校内外	④	
	⑤	特別支援学級担任が、支援の必要な児童に対する理解を深めるために各クラスに入り、発達段階に合わせた授業を行っています。				
5-4	①	特別支援学級の環境整備				
	②	児童	③	学校内外	④	
	⑤	特別支援学級で車いすを利用する児童の教室を1階の昇降口に一番近い場所に設置し、緊急時の避難経路を確保しています。				
5-5	①	特別支援学級児童の登下校				
	②	児童	③	学校内外	④	
	⑤	集団での登下校に危険が予測される児童については、保護者の付き添いを依頼し、下校時は保護者に確実に児童を引き渡せるよう、教員が付き添っています。				
5-6	①	新1年に対する下校指導				
	②	児童	③	通学路	④	
	⑤	入学後2週間、自分の通学路を覚え、安全に下校できるようにするため、下校コースに分かれて2年生と教員とが付き添って下校します。				
5-7	①	安全マップの作成・ハザードマップの掲示【新規】				
	②	児童	③	通学路	④	
	⑤	<u>安全マップ、ハザードマップを掲示して、児童、地域の方がいつでも見られるように掲示しています。</u>				

6 環境整備

6-1	①	カーブミラーの設置【新規】			
	②	児童・地域	③	通学路	④
	⑤	自治会・警察・教員 見通しの悪い横断歩道に、警察、地域の方の協力により <u>カーブミラー</u> が設置されました。			



6-2	①	交差点の拡張【新規】			
	②	児童・地域	③	通学路	④
	⑤	市・自治会 狭く、見通しの悪かった交差点が拡張され、 <u>広い歩道と、歩行者用信号</u> が設置されました。			



6-3	①	通学路の安全確保【新規】			
	②	児童・地域	③	通学路	④
	⑤	府・市・自治会・教員 車の通りが多く、見通しの悪い危険な交差点に歩行者用のポールを設置し、歩行者の安全を確保できるよう要望しています。			



6-4	①	通学路の検討			
	②	児童・地域	③	通学路	④
	⑤	府・市・自治会・教員 児童の通学路の安全について検討し、危険な所については、市や府に要望を出しています。			



6-5	①	安全対策委員会			
	②	児童・地域	③	通学路	④
	⑤	自治会・教員 地域で子どもたちの安全を守るための話し合いを行い、こども110番の家やIちゃんパトロール隊の普及を進めています。			



6-6	①	子ども見守り活動【改善】			
	②	児童・地域	③	学校外	④
	⑤	自治会・PTA等 こども110の家にご協力いただいたら、自転車や車にステッカーを貼り、子どもたちの見守り活動を行っていただいている。			



指標4 ハイリスクグループ・環境及び弱者を対象としたプログラムがある

本校には、ひまわり学級（特別支援学級）が3学級あり、それぞれの個別の支援を必要とする児童が在籍しています。特に、ひまわり3組には、車いすを使用している児童が在籍し、安全な学校生活を送るために、様々なリスクを予測した対応策を考える必要があります。

1 特別支援学級（ひまわり3組 車いすを使用）児童に対する対応

（1）登下校の支援

（指標3 5-3、5-4、5-5）

送迎車両の駐車スペースを確保



登下校時の乗降車用に、スロープに一番近い場所を駐車スペースとして確保しています。降車後は、教室まで職員が付き添います。

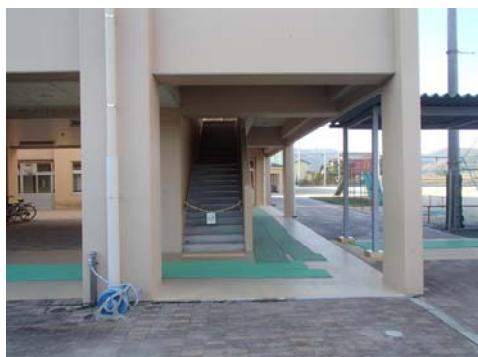


支援施設との連携

下校時は、支援施設の職員の方と連携を図りながら、教員から職員の方に引き継ぎ、本児の安全を確保しています。

（2）雨の日の支援

雨天用の駐車スペースの確保



雨天時は、校内の屋根のある場所を駐車スペースとしています。登校時間に合わせて、職員が門を開け、降車後、傘をささずに教室に行けるよう通路を確保しています。

（3）協力学級における支援

授業参加への支援

体育のサッカーの学習では、車いすに乗っていてもボールを蹴ることができるよう、ネットを張っています。ネットを張ることで他の児童の足が車いすのタイヤに当たることも防いでいます。



安全な歩行をするために



廊下で、車いすと歩行している児童とが接触することを防ぐため、車いすは廊下の中央を通るようにしています。

(4) 理解教育

車いすを使う児童も、周りの児童も安心安全に過ごせるよう理解教育を行っています。



車いす体験の学習



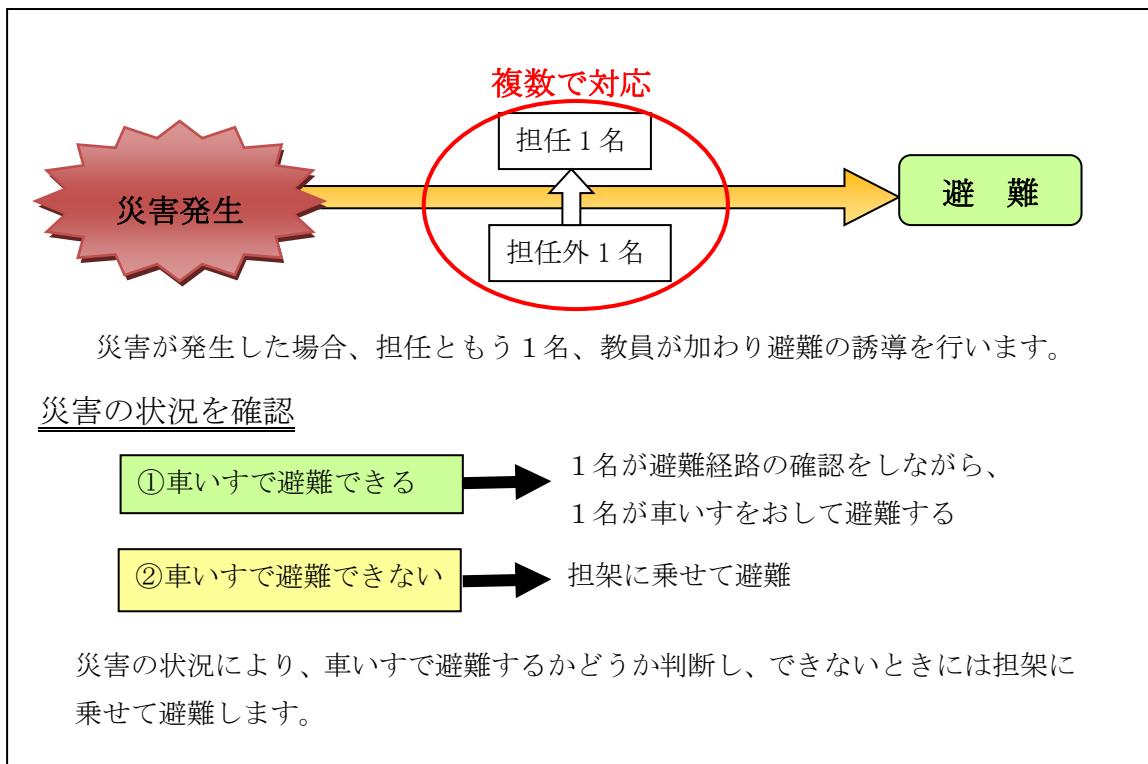
学習の内容

理解教育では、車いすの仕組みを知り、実際に車いすに乗る体験をしたり、仲良く学校生活を送るためにどうすればいいか考え合ったりしています。学習をとおして、お互いを尊重し、助け合える集団づくりを目指していきたいと考えています。



(5) 災害時の対応

災害時の対応については、避難マニュアルを作成し、全ての教職員が迅速で的確な対応ができるようにしていきたいと考えています。



2 土砂災害等、大規模な災害に備えた対応 (指標3 5-1)

(1) 避難訓練の実施

大規模地震やその後の火災を想定した訓練



亀岡消防署の協力を得て、実際に煙が充満した部屋を、障害物を避けながら避難する訓練を行いました。



緊急地震速報が出たときに、すぐに自分の身を守る態勢をとる訓練を行っています。児童には予告無しに行い、非常時には、自分の判断で行動に移せる訓練を行っています。

年間4回の避難訓練を実施しました。2015年度については9月に、児童・職員・自治会・消防地域住民合同での防災訓練を実施予定です。

(2) 安全マップの作成・ハザードマップの掲示 (指標3 5-6)



安全マップやハザードマップを掲示し、児童や地域の方々が地域の危険箇所を常に確認できるよう環境を整えています。

(3) 地域の災害学習 (指標3 1-6)

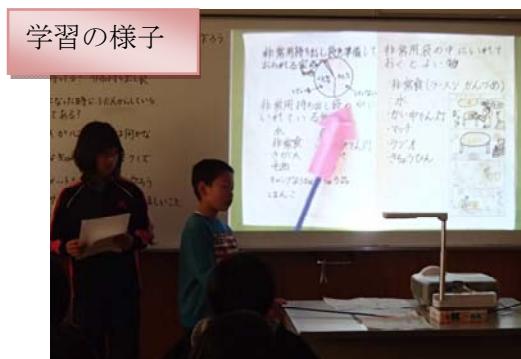
5年生では、地域で発生した土砂災害を安全教育に位置づけています。その当時の災害の様子や住民の皆さんやボランティアの方々の災害救助の活動、防災に向けた取り組み等をフィールドワークや関係者の方々の話から学習しました。



災害が起きた現場での
フィールドワーク



新しくなった
砂防ダム



地域での災害を学習することで、子どもたちは、自分たちの住む地域にどのような素因（地形上の課題）があるかを身近な問題として捉えることができます。どのような災害が起こりうるか、その危険性を知っていることは、命を守ることにつながります。大きな誘因（大雨・地震等）が起こった際に、災害が起こるのではないかと予測し、迅速な避難行動がとれるようにしたいと考えています。

2 新1年生の安全な登下校に対する対応（指標3 5－6）



新1年生の家は、入学前に地図上で場所を確認し、登校班を決めています。特に1年生は、下校時どこまで複数で帰り、どこから1人になるかをチェックし、その距離が長い場合や、危険な場合は、保護者と連携を図り、出迎えを依頼したり、地域の方に見守りをお願いしたりしています。



必ず複数学年で下校します。1年生は、2年生（週に1度3年生）と下校しています。

新1年生が、通学路を覚え、安全に下校できるようになるまで、約1ヶ月間は、地域ごとに教員が付き添って下校しています。

指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること

1 課題を導く原因分析

軽微なものを含むけがの発生状況の分析

(図3-1, 3-2) けがの総数、1日あたりのけがの件数 平成25年度の87%(1月末) → 減少

【分析と予防対策】

分析	ベースとなるデータ	明らかになった 予防対象	予防対策
分析I ○1年生4月のけが	図3-3 【詳細】表1-1 表1-2	1年児童	①自分の体をしっかり支える力の育成
○5・6年生の9月のけが	図3-3 【詳細】表2-1	5・6年児童	②危険を予測する力の育成
分析II ○けがの部位別件数	図3-7	全校児童 頭部・体幹のけが	③保育所・幼稚園・小学校の円滑な連携
分析III ○けがの起因	図3-8 3-9 3-10	全校児童の危険な行動	
分析IV ○学校事故災害の分析	図3-11~3-15	全校児童の人間関係	
分析V ○自転車走行時のけが	図3-16~3-20	全校児童 自転車の運転技能	④心の育成
分析VI ○心の健康	図3-21~3-25	全校児童の人間関係	⑤自転車の運転技術・安全意識の育成

2 重点取組

予防対象	課題	対策
校内におけるケガ 心の育成	危険予測・回避能力の育成 予防対策②③	(1) ケガマップの作成 (指標3 1-2) (2) 毎日のケガ調べ (指標3 1-1) (3) 校舎内外の安全点検 (指標3 1-4) (4) 安全学習 (指標3 1-6) (5) 保育所・幼稚園・小学校の円滑な連携 (指標3 1-12、5-6)
	体幹の強化 予防対策①	(6) 体育における体幹強化の指導 (指標3 1-11) (7) 掃除等、日常生活における体幹を意識した指導 (指標3 1-12)
	心の育成 予防対策④	(8) いじめ防止フォーラムの開催 (指標3 3-1) (9) なかよし班活動 (指標3 3-3)
自転車による 交通事故防止	技能・意識 の向上 予防対策⑤	(10) 自転車免許・交通安全免許の取り組み (指標3 2-2) (11) 交通安全教室 (指標3 2-1) (12) 安全学習 (指標3 1-6) (13) ヘルメット着用の取り組み (指標3 2-3) (14) 安全マップ作り (指標3 1-13)

(1) けがマップの作成



けがをした児童は、自分がけがをした場所にシールを貼ります。雨の日と晴れの日で色を変えて比較できるようにしています。

保健体育委員会の児童が、けがマップやけがの月ごとの集計表を見て、分析をします。自分たちで分析することで、けがの多い時間や場所が分かり、けがを減らすための対応策も見えてきます。



児童の分析から

① 赤い通路と運動場の境目でのけがが多い

なぜ
走っていく人が多いから（砂で滑ってこける）
溝蓋があるから（溝蓋で滑ってこける）

② プール入り口近くのけがが多い

なぜ
走っていく人が多いから（砂で滑ってこける）
溝蓋があるから（溝蓋で滑ってこける）



①と②の原因は同じではないかな？

ということは同じような状況の砂場とフェンスの間も同じ原因でけがが多いのでは…

気をつけること 溝蓋の上は走らない 運動場から出るときは靴の砂を落とす



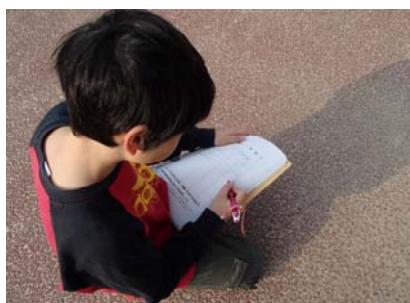
学年ごとに、いつどこでけがをしているか分析しています。教師だけでなく、児童自らが、自分たちのけがを見直す活動を大切にしています。

(2) 毎日のけが調べ



保健委員会の児童が、毎日ケガをした人の数をグラフにしています。また、給食時間には、学年ごとにケガをした人の数を放送で発表しています。子どもたちのケガに対する関心も高まりつつあります。

(3) 校舎内外の安全点検



安全点検		
点検内容	△	○
床に物が落ちていないか	△	○
机やいすの整理整頓ができているか	×	○
コードが引っかかりそうにならないか	○	○
本の整理・整頓ができるか	○	○
水筒を危ない場所に置いていないか	△	○

教室の安全点検カード（児童の点検から）

点検内容		危険だと感じた理由	どのようにすれば改善されるか
床に物が落ちていないか	△	ぞうきんが床に落ちていて滑りそうだった。	ぞうきんをきちんとかけておく
机やいすの整理整頓ができるか	×	いすがつくえの中に入っていない	休み時間でもしっかりと入れておく。
コードが引っかかりそうにならないか	○		
本の整理・整頓ができるか	○		
水筒を危ない場所に置いていないか	△	水筒のひもが垂れ下がっている	水筒を入れる箱をおく

安全に過ごすために必要な点検内容を子どもたちが考えました。毎週月曜日の休み時間に点検し、何が危険なのか、どのようにすればいいか改善策を考えて報告しています。

(4)(12) 安全学習

ISS年間学習計画(1)年

項目	月	4	5	6
月目標	心の教育	学校生活を気持ちよく	みんな仲良く	
	安全教育	安全な登下校	施設・遊具の安全な使い方	自転車の安全な乗り方
学校行事	生活・心	始業式 入学式	体力テスト 修学旅行 全校ウォークラリー	プール開き 校外宿泊学習 いじめ防止フォーラム 心の教育
	防犯	防犯教室		
	交	交通教室	交通教室(運転免許証)	交通教室(運転免許証)
	災	避難訓練(地震・火災)		
	国語	あかるいこえで		なんていったらしいのかな

学年ごとに、安全教育の年間計画を立て、それに基づいて学習を進めています。

副読本による安全学習



交通安全、防犯、災害等、各学年の発達段階に合わせて、繰り返し学習をすることで、安全への知識を深めています。また調べ学習の活用できるように、ISSコーナーに安全に関わる本を置いています。

保健室前の掲示



1年生 あんぜんにこうえんへいこう



生活科の学習の中に安全学習の視点を取り入れました。

2年生 いのちのたんじょう



養護教諭が入って、おへその役割について学習しました。

3年生 防犯 自分の身を守る



亀岡警察に協力していただき、不審者の対応についてロールプレーを交えて学習しました。

保健室前の黒板に、保健に関わる様々な掲示をしています。

保健指導

月1回の体重測定の機会に、養護教諭による保健指導を行っています。その中で、けがの見分け方や、けがの手当の仕方など、安全教育の視点からも指導を行っています。

(5) 保育所・幼稚園・小学校の円滑な連携

そうじの仕方



横断歩道の渡り方



小学校生活がスムーズにスタートできるよう、1年生児童が、学校での約束や学習の仕方等を劇やクイズにして、保育園児にわかりやすく説明しました。また、初めての集団登校に備え、登校班での歩き方や、横断歩道の渡り方と一緒に練習しました。

(6) 体育における体幹強化の指導

高校生によるトレーニング



体育の準備体操



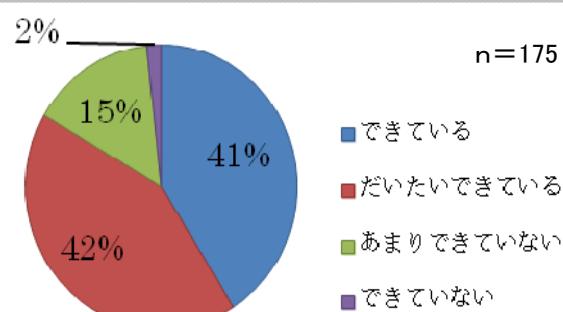
南丹高校と連携し、高学年を対象に持久走の指導を受けています。その中で、いろいろな体幹を鍛えるトレーニングを教えてもらい、それを体育の準備体操等で取り入れています。よいトレーニングがあれば、教師間でミニ講習会を開き、情報の交流を図っています。

(7) 掃除等日常生活における体幹を意識した指導



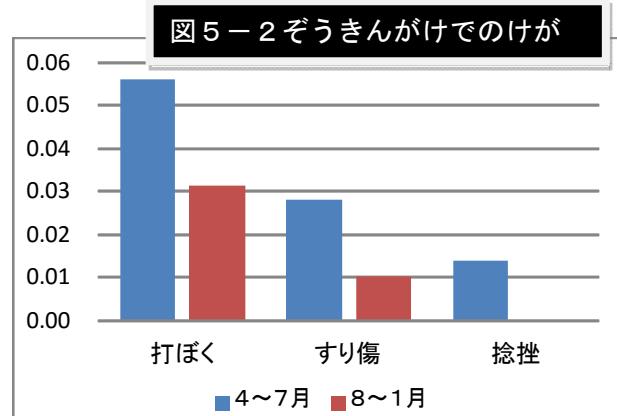
ひざをあげて、ぞうきんがけすることで腕に自分の体重をしっかりと乗せることができます。
毎日続けることを大切にしています。

図5-1 ひざをあげてぞうきんがけをしていますか



(2014年12月 児童アンケートより)

図5-2 ぞうきんがけでのけが



※「雑巾がけの際のけが数」÷「授業日数」の比較

図5-1 児童アンケートによると、ひざをあげてぞうきんがけをしている児童は、全体の 83%
今年度前半と比べると、ぞうきんがけをしていての打撲、すり傷、捻挫は減っています。

(8) いじめ防止フォーラムの開催



児童、教員、保護者、PTA、地域の方々みんなで、いじめについて考えるいじめフォーラムを開催しました。各クラスで取り組んできたことの発表や、参加者との意見交流、講演会をとおして、人を傷付ける言動はみんなで解決し助け合うことを確認しました。

【いじめ防止宣言】

だれもが、安心・安全な学校生活を送り、自分の命を輝かせることは、尊我部小学校の目標です。これから、いろいろな取組を進め、インターネット・ソーシャル・セーフティスクールとして、みんなから認めてもらえる学校にしていきたいと感じます。

ISSA アイ・エス・エス、憲章にかかげる四つの柱は、いじめをしない、させない、やるやかないで学校を作るためにも必要なことです。

しかし、実際には、友達を傷つけたり、傷つける言葉を言ったりと、同じ時間を一緒に過ごす仲間を傷けてしまつことがあります。

いじめとは、その人の心や体を傷つける行為であり、その人生に、大きな影響を与えるものです。だからこそ、決して許されない、許してはいけない行為です。

今日、ぼくたちは、いじめの問題を自分自身のこととして何ができるのかを真剣に考えました。これからは、お互いを思いやり、全校協議が仲良く、楽しく過ごせる学校を作っていくために、次の三つのことを大切にしていきます。

一、やさしくて禮貌で、思ってやうのありの言葉を広げて、みんなと仲良くします。

二、喜びや悲しみを分かち合い、みんなで助け合います。

三、人を傷つける行動を決して許さず、困った時にはみんなで解決します。

ぼくたちは、自分たちの力で、いじめのない、笑顔あふれる曾我部小学校を、作っていきたいと思します。

平成二十六年 六月 二十四日 倉我部小学校児童会

(9) なかよし班活動



1年生から6年生までを縦割りにした班をなかよし班とよんでいます。なかよし班という異年齢集団の活動をとおして、心の育成を図っていきたいと考えています。

<なかよし班の活動>

5月 全校ウォークラリー

校区内の公園まで歩き、一緒にお弁当を食べたり、遊んだりします。

9月 運動会 なかよし班種目

なかよし班対抗の種目があります。

2月 全校ウォークラリー2

体育館で班ごとにつくった遊びのコーナーをまわったり、コーナーを運営したりします。

2月 大縄大会

8の字跳びの回数を班ごとに競います。

3月 なかよし班給食

班ごとに給食を食べ、6年生に感謝の気持ちを伝えます。

※ 学期に1回程度、なかよし班遊びをしています。

(10) 自転車免許・交通安全免許の取り組み



自転車運転免許証実技テスト



低学年 交通安全教室



自転車運転免許証の交付



交通安全免許証の交付

毎年安全教室で、1年生は安全な歩行の仕方について、2年生から6年生までは、安全な自転車の乗り方について学習をしています。2014年度は本校の実態に合わせ、さらに自転車の正しい乗り方について学習を深めることを目的に、4年生～6年生は、自転車運転免許証取得の取り組みを行いました。自転車運転免許証取得に向け、学習時間や休み時間を使って、交通ルールの学習や自転車走行の練習に取り組み、全員が免許を取得しました。

また、1・2年生は、中部保育所の園児とともに交通安全教室を行い、交通安全免許証を取得しました。

(11) 交通安全教室

教員による正しい歩き方



4月には、新しい登校班で安全な登下校ができるよう、交通安全教室を行っています。道路の歩き方、横断歩道の渡り方を中心に、教員が悪い歩き方、よい歩き方を実際にやって見せ、児童にどこが悪いか、どう直せばいいか考えさせています。

横断歩道のない道路の渡り方の練習



地域担当による安全指導



教員による朝の登校指導や、下校パトロールにおいて、危ないと感じたことや、気づいたがあれば、教員で情報を共有し、児童に指導を行っています。道路の横断等については、実際に児童が練習をしたり、現地で指導するなど、迅速に対応することを心がけています。

<交通安全教室>

- 4月 新しい登校班での正しい歩き方（児童・教員・警察）
- 7月 夏休み前の安全指導（児童・教員・警察）
- 10月 道路の渡り方の指導（児童・教員）
- 12月 冬休み前の安全指導（児童・教員・警察）
- 3月 春休み前の安全指導（児童・教員・警察）

月に1回 登校指導
毎週2回 教職員による下校パトロール

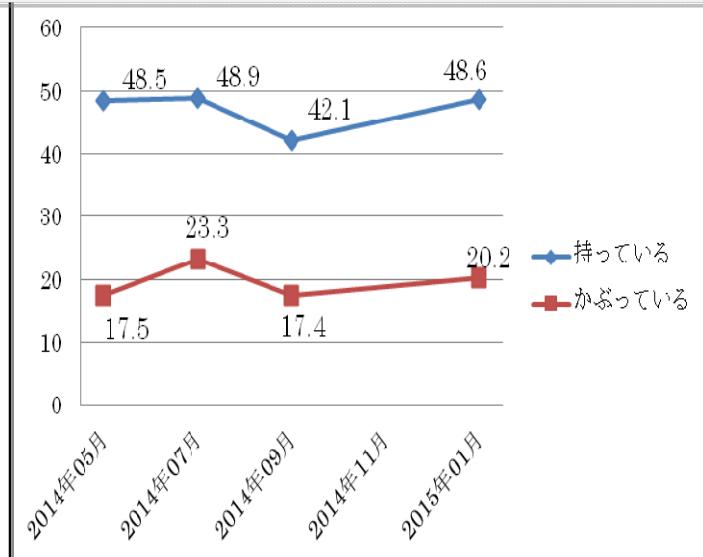
正しく登下校できているかをチェック
し、危ない時は地域担当から指導する。

(13) ヘルメット着用の取り組み



ISSコーナーにヘルメットを展示し、児童や保護者がいつでも、手にとってみられるようにしています。

図5-3 ヘルメット所持率・着用率調べ（児童アンケートより）



ヘルメットについては、持っているが着用していない児童が多く、今後も様々な機会に、ヘルメットの着用を呼びかけていく必要があります。

曾我部小学校 6月号 ISSニュース

ヘルメット着用で死傷の割合は4分の1！

自転車事故による損傷主部位の割合		ヘルメット着用と死者数の割合	
頭部	64%	ヘルメットなし	ヘルメットあり(脱げなかった場合)
腹部	13%	94,922人	4,697人
四肢	16%	死亡した人	27人
胸部	5%	死亡した人の割合	0.57%
頭部	4%		
腹部	4%		
四肢	4%		
胸部	4%		

平成21年～23年の間に自転車事故で死亡した1981人のうち、頭部を損傷した人の割合は64%です。また、頭部損傷の原因の多くが路面や車体に頭部にぶつけたことによるものです。

（資料：交通事故総合分析センター調べ）

命を守るためにヘルメットは必須品

曾我部小学校では・・・

およそ半数の児童がヘルメットを持っていますが、着用している割合が低いです。

ヘルメットを持っていない 51% ヘルメットを持っている 49%

着用している 82% 着用していない 18%

多目的スペースにヘルメットを置いていますのでご覧ください。

毎月発行しているISSニュースで、ヘルメット着用の必要性についての記事を掲載しています。また、PTA本部からもヘルメット着用を保護者に呼びかけています。

(14) 安全マップづくり



児童一人一人が、地図の上に自分の家をシールで張りました。地域の危険箇所については、保護者と職員とで調べたことをカードにまとめ、こども110番の家とともに、子どもたちと確認しました。

曾我部小学校 12月号

ISS=ユース

安全マップができました

こども110番の家

どこに110番の家があるか、子どもたちと確認しました。

ハザードマップ

各地域の危険箇所を番号で表示

子どもたちの家

学年ごとに色分をして、自分の家にシールをはりました。

何が危険なのか、写真入りで説明しています

大通りに向かう道路

カーブがあります。スピードを出した自動車が、たくさん走っています。大きな車に出る時は、必ず一度停止をして、安全を確認しましょう。

安全マップ

30

法貴

9 30 31

校舎内に掲示して、児童や保護者、地域の方々がいつでも見て確認できるようにしています。

指標6 外傷の発生頻度や原因などを記録するプログラムがある

本校では、児童の外傷等に関する記録を、情報収集のプログラムを用いて把握しています。

分類	ケガの種類	記録方法	頻度
からだのけが	軽微なもののみを含むけが (校内におけるけが記録)	保健室利用カードを使って、けがの情報を収集し、統計処理を行います。	毎日データ入力し、週ごと、月ごとに分析を行っています。
	通院を要するけが (スポーツ振興センター記録)	学校管理下におけるけがについては、災害医療費請求のために、市教育委員会に記録を提出し、日本スポーツ振興センターへ申請を行います。	月ごとに集計し、市教育委員会に提しています。
心のけが	いじめにつながる訴えや事案の件数	全児童を対象に、いじめアンケート調査と児童アンケート調査を行っています。	毎学期ごと(いじめアンケート調査) 年間2回(児童アンケート)

1 校内におけるけがの記録

けがをした児童が養護教諭とともに、「ほけんしつりようカード」にけがの状況について記録します。記録後は、けがマップにシールを貼ります。



* ほけんしつにきたひとは、かならずかいてください。

整理No.

一
ケガマップ
済・未・無

ほけんしつりようカード

ねん 年 なまえ 名前												(だんし 男子 ・ じょし 女子)						つきそい					
がつ 月		にち 日		(月・火・水・木・金・土)								じ 時		ふん 分									
1	いつのケガ?	朝	登校中	朝 休 み	朝 の 会	1 時 間 目 ()	休	2 時 間 目 ()	休	3 時 間 目 ()	休	4 時 間 目 ()	給 食	昼 休 み	そ う じ	休	国 算 タ イ ム	5 時 間 目 ()	休	6 時 間 目 ()	終 わ り 会	放 課 後	下 校 中
受傷(☆)来室(○)休養(→)																							
ほか 他		きのう 昨日のつづき	きのう 昨日(学校で)	きのう 昨日(家で)	やす 休みの日																ぎょう 行事		
2	どこで?	うんどうじょう 運動場	ゆうぐ 遊具()	たいいくかん 体育馆	きょうしつ 教室	とくべつきょうしつ 特別教室	たもくとき 多目的室	たもくとき 多目的スペース															
		デッキ	あか 赤い通路	わたり 渡り廊下	ろうか 廊下	かいだん 階段	いえ 家	ほか 他:															
3	なに 何をしていて?					なに 何で?																	
	どうなって?					どうなった?																	
4	どこを?																						
6	どんなケガ?	すり きず 傷	う み 打 ち 身	突 き ゆび 指	つめ	や け ど	はなぢ 鼻 血	いた 痛 い()															
		ざそう 挫 創	だほ 打撲	ねんざ 捻挫	さかむけ	ひっかき きず 傷	ま す め いぶつ 眼 異 物	むしさ 虫 刺 され															
		かのう しょう 化 膿 傷	き き ぎ り 傷	さ き き し 傷	かさふた	まめ		トゲ															
7	どうしたらケガ をしなかったか な?																						
8	手 当	消毒・薬()・ガーゼ保護・冷やす・圧迫・固定 止血・除去・洗眼・湿布・なし その他()																					
		なし・処置のみ・経過観察・休養・病院()・早退																					
9	その他	単独: 技能未熟・施設不備・環境整備不良・わからない・他()・継続 不慮・ケンカ・ふざけ・不注意・違反・																					
		翌日確認: 相手: 不慮・ケンカ・ふざけ・不注意(本・互・相)・違反(本・互・相)・一方的																					

けがの記録は、記録ソフトを使って集計し、分析します。

表 7-1 集計用紙

学年	番号	性別	来室理由	時刻	校時	けが名	部位	場所	原因(けが)	手当(けが)
4年	17	男	けが	10:10	2時間目	擦過傷	膝	運動場	不慮(転倒)	なし
1年	17	女	けが	10:20	中間休み	切傷	口	教室	その他	なし
6年	30	女	けが	11:30	前から	化膿傷	手・手指	家	その他	受診勧告
1年	17	女	けが	10:35	中間休み	切傷	口	運動場	その他	なし
3年	12	男	けが	8:30	朝休み	切傷	手・手指	運動場	わからない	処置
6年	30	女	けが	10:30	継続	継続	継続	継続	継続	継続
1年	14	女	けが	11:10	3時間目	痛み	大腿	教室	わからない	なし
5年	9	女	けが	14:40	5時間目	切傷	手・手指	教室	不注意(紙)	処置
1年	17	女	けが	10:25	2時間目	擦過傷	膝	運動場	不慮(転倒)	処置

事故災害については、月ごとに市の教育委員会に報告します。

第1号様式

集計データは表やグラフにまとめ、教員や児童で結果を分析、必要な対策を考えています。

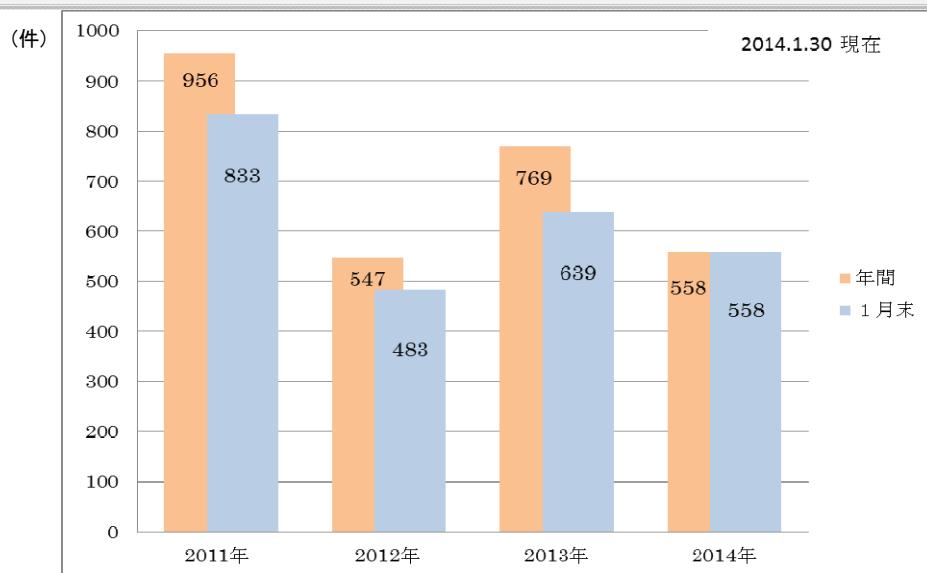
指標 7 学校政策、プログラム及びそのプロセスが変化したことによる効果を評価する方法がある。

対 策		短・中期的成果の指標	長期的成果の指標
ケガの減少・心の育成	目標：危険予測・回避能力の育成 (1) ケガマップの作成 (2) 毎日のケガ調べ (3) 校舎内外の安全点検 (4) 安全学習 (5) 保育所・幼稚園・小学校の円滑な連携	指標：ケガの発生要因・改善策の理解 ○児童アンケート ・対象：全児童 ・回数：年間1～2回	○校内のケガの発生率 ・保健室データ (図7-1)
	目標：体幹の強化 (6) 体育における体幹強化の指導 (7) 掃除等、日常生活における体幹を意識した指導	指標：体力の向上 ○体力テストの結果 ・対象：全校 ・回数：年1回	
	目標：心の育成 (8) いじめ防止フォーラムの開催 (9) なかよし班活動	指標：良好な人間関係の構築 ○いじめ実態調査 ○児童アンケート (図7-2、7-3) ○Q-U検査 ・対象：全児童 ・回数：1～3回	
自転車事故防止	目標：技能・意識の向上 (10) 自転車免許・交通安全免許の取り組み (11) 交通安全教室 (12) 安全学習 (13) ヘルメット着用の取り組み (14) 安全マップ作り	指標：交通ルールの定着・運転技能 ○自転車運転免許証テスト ・対象：4・5・6年 ・回数：年1回 指標：ヘルメットの着用率 ○児童アンケート調査 ・対象：全児童 ・回数：1～2回	○自転車による事故の発生率 (図7-4)

1 けがの減少・心の育成

目標: 危険予測・回避能力の育成

図7-1 けがの総数（件） 保健室データより（図3-1の一部を再掲）



【成果】 I S S の活動に取り組むことで、けがの総数は、年々減少しています。（2014年1月より、軽微なけがを含む全てのけがについて集計）

【改善】 今後もけがの発生要因の分析を進め、要因に即した適切な安全学習を行います。

目標: 心の育成

（いじめアンケート調査より）

図7-2 嫌なことをされた人数（人）

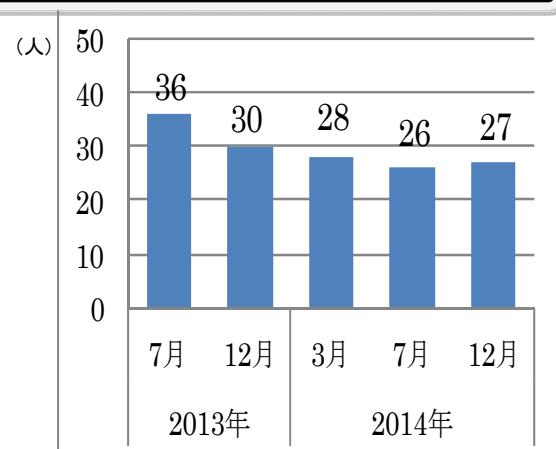
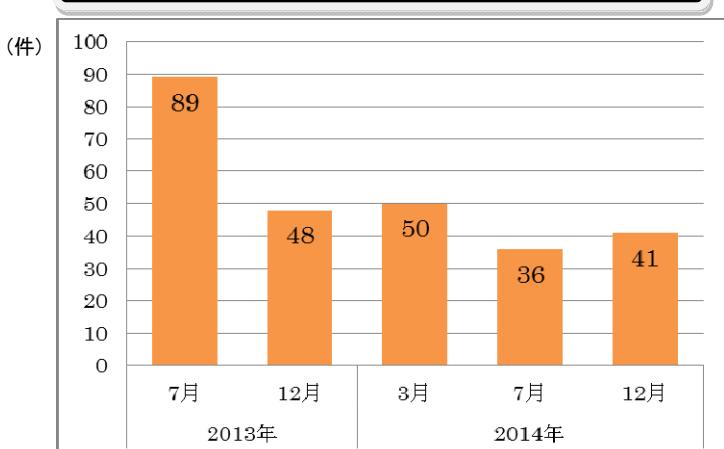


図7-3 嫌なことをされた事案件数（件）



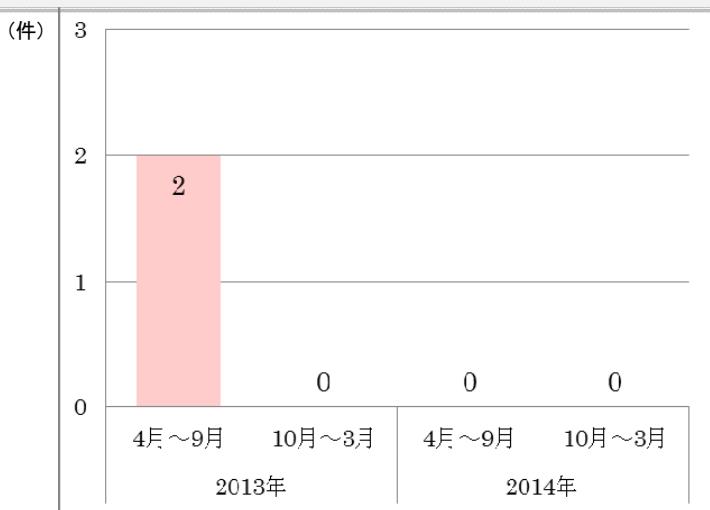
【成果】 嫌なことをされたと答えた児童の数、嫌なことをされた件数、どちらも減少しています。 I S S 取得宣言（2013年9月）をしてからと、いじめ防止フォーラム（2014年6月）後の減少が大きく、取組の成果が伺えます。

【改善】 現状の取組に効果がみられますので、さらに内容を見直し、児童の実態にあったより効果的なものに改善していきます。

2 自転車事故防止

目標: 交通ルールの定着・運転技能の向上

図7-4 自転車事故件数(件) (事故災害報告データより)



【成果】自転車事故は2013年10月より発生していません。運転技能の向上をはじめ、様々な安全教育を行うことで、大きな事故を防ぐことにつながっていると考えています。

【改善】交通安全遵守や危険を予測した自転車の走行等、児童の安全に対する意識と技能を、さらに高めていくことで、事故防止が継続できるようにしていきます。

指標8 国内・国際的なネットワークへ継続的に参加している

亀岡市におけるネットワーク

- ・ 安全安心フォーラム in かめおか 2014 (2014. 2. 22)
- ・ 学校危機メンタルサポートセンターフォーラム (2014. 3. 7)
- ・ インターナショナルセーフスクール研修会 (2014. 8. 4)
- ・ 亀岡のセーフコミュニティ講座 (2014. 8. 5)

亀岡市外におけるネットワーク

- ・ 厚木市立清水小学校 I S S 再認証現地審査 (2013. 10. 9)
- ・ 半田市立亀崎小学校安全教育研究発表会 (2013. 11. 28)
- ・ I S S 推進委員養成セミナー (2014. 1. 25)
- ・ 北本市立中丸小学、宮内中学校現地審査 (2015. 3. 6)



第5章 安全な学校づくりに向けての今後の取組と展望

1 課題

課題1 けがの減少 自らの安全を自分で守れるようにする

① けがの現状

I S S の取組を始めてから、けがの数は年々減少してきていますが、少し気をつければ防げるけががあります。

② 安全の知識

学校安全年間指導計画を作成し、安全についての知識や技能の向上に向けた授業を行っています。学習時には理解し、意識していても、学習内容によっては、日が経つにつれ意識が薄れているものもあります。

③ 判断力・行動力・危機への感覚・予測能力

学習した知識や技能を実際の日常生活の場面で生かしていくよう、より具体的な場面を想定した取り組みや、児童自らが考え行動する取り組みを進めてきました。児童も落ち着いて学校生活が送れていますが、危険を予測し、安全な行動がとれなかつたときもあり、大きなかがにつながる可能性があります。

④ いのちを大切にする心

いじめ防止フォーラムや講演会を行い、様々な角度からいのちの大切さについて考える機会を設定してきました。友達関係において嫌な思いをする児童の数も減少してきていますが、いじめのない学校にしていくためには、児童の心を育む取組を継続していく必要があります。

課題2 安心できる環境をつくるために

① 学校内外の安全性の向上

校舎内外の安全や地域の安全について、画一的になっている部分もあり、教師、児童、保護者、地域の方々とともに調べたり、考えたりする機会を工夫する必要があると思います。

② PTA・地域・各種団体との連携

I S S の取組に地域の方々、PTAの方々をはじめ、多くの方々との協働体制を構築してきました。幼稚園や中学校との連携も進めていますが、会議の設定等、連携に弱さがみられました。

③ PDCAサイクルの活用

I S S に関する取組やデータについて、週2回の終礼や職員研修の機会をとおして、職員で進捗状況や、改善策等を話し合っていますが、定期的にデータの比較・分析を行うことが必要であると思います。

2 今後の取り組みと展望

○ けがの減少を図ります。

- ・ 一層のけがの分析と、けがの状況や起因に対する教職員の理解

○ ISSに対する児童の自主的・主体的な取組を一層推進します。

- ・ 児童委員会における I S S 活動の充実
- ・ いじめ防止フォーラムの継続及び発展

○ 自他のいのちを尊重する児童の育成を図ります。

- ・ 安心安全への知識・理解、行動力の伸長を図るプログラムの開発、教材の整備
- ・ 自転車をはじめとする交通安全教育の推進
- ・ 栽培活動による心の育成
- ・ 講演会やワークショップ、道徳の時間を活用した心の教育の推進
- ・ お互いを大切にする心や自己肯定感を高める異年齢集団活動の充実

○ 安心安全を中心に据えた学校経営を推進します。

- ・ 校長のリーダーシップのもとに I S S に取り組む推進体制
- ・ 教職員の安全意識、危機管理能力の向上
- ・ 教師、児童、保護者、地域の方々が一体となった校舎内外、地域の安全性の向上

○ 対外的な連携を強化・発展します。

- ・ P T A、自治会、各種団体との連携・協働の推進
- ・ 保育所や中学校との連携
- ・ 亀岡市セーフコミュニティ、I S S 認証校、取組校との交流、国内外とのネットワーク
- ・ 実践の市内外への広報、発信

○ データや根拠に基づいた継続的な取組を推進します。

- ・ 学校生活アンケートの実施による実態の把握
- ・ 外傷データの集計及び分析、可視化
- ・ 課題の焦点化、改善策についての定期的な検討



亀岡市立曾我部小学校 (Sogabe Elementary School)

〒621-0022 京都府亀岡市曾我町南条荒水代1

TEL : 0771-22-0603 FAX : 0771-22-0660